

有価証券報告書の訂正報告書

(金融商品取引法第24条の2第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成27年4月1日
(第117期) 至 平成28年3月31日

日本カーバイド工業株式会社

東京都港区港南二丁目16番2号

(E00777)

目次

	頁
有価証券報告書の訂正報告書	
1. 有価証券報告書の訂正報告書の提出理由	1
2. 訂正事項	1
3. 訂正箇所	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1. 主要な経営指標等の推移	2
2. 沿革	4
3. 事業の内容	5
4. 関係会社の状況	8
5. 従業員の状況	10
第2 事業の状況	11
1. 業績等の概要	11
2. 生産、受注及び販売の状況	13
3. 対処すべき課題	14
4. 事業等のリスク	14
5. 経営上の重要な契約等	15
6. 研究開発活動	16
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	17
第3 設備の状況	18
1. 設備投資等の概要	18
2. 主要な設備の状況	18
3. 設備の新設、除却等の計画	19
第4 提出会社の状況	20
1. 株式等の状況	20
2. 自己株式の取得等の状況	23
3. 配当政策	23
4. 株価の推移	24
5. 役員の状況	25
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	28
第5 経理の状況	36
1. 連結財務諸表等	37
2. 財務諸表等	73
第6 提出会社の株式事務の概要	84
第7 提出会社の参考情報	85
1. 提出会社の親会社等の情報	85
2. その他の参考情報	85
第二部 提出会社の保証会社等の情報	86

監査報告書

内部統制報告書の訂正報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年12月13日

【事業年度】 第117期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

【会社名】 日本カーバイド工業株式会社

【英訳名】 NIPPON CARBIDE INDUSTRIES CO., INC.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 松尾 時雄

【本店の所在の場所】 東京都港区港南二丁目16番2号

【電話番号】 03(5462)8200

【事務連絡者氏名】 経理部長 角田 尚久

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南二丁目16番2号

【電話番号】 03(5462)8200

【事務連絡者氏名】 経理部長 角田 尚久

【縦覧に供する場所】 日本カーバイド工業株式会社 大阪支店
(大阪市中央区淡路町二丁目5番9号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、当社の連結子会社であるダイヤモンドエンジニアリング株式会社において、完成工事の原価を未成工事の原価に付替えることによる費用の繰り延べや、工事進行基準案件における売上の前倒し計上などの不適切な会計処理が判明したことを受け、外部専門家を含む特別調査委員会を設置し、その事実関係の詳細及び発生原因を究明すべく調査を進めてまいりました。

同委員会から調査結果の報告を受け、当社は過去に提出いたしました有価証券報告書及び四半期報告書に記載されている連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を訂正することといたしました。

これにより、当社が平成28年6月29日に提出いたしました第117期（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）に係る有価証券報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けており、その監査報告書を添付しております。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移
- 2 沿革
- 3 事業の内容
- 4 関係会社の状況
- 5 従業員の状況

第2 事業の状況

- 1 業績等の概要
- 2 生産、受注及び販売の状況
- 6 研究開発活動
- 7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第3 設備の状況

- 1 設備投資等の概要
- 2 主要な設備の状況

第5 経理の状況

- 1 連結財務諸表等

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
売上高 (百万円)	<u>49,110</u>	<u>50,620</u>	<u>55,372</u>	<u>56,765</u>	<u>50,182</u>
経常利益 (百万円)	<u>1,446</u>	<u>898</u>	<u>1,377</u>	<u>1,640</u>	<u>2,255</u>
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△) (百万円)	<u>427</u>	<u>97</u>	<u>257</u>	<u>△1,815</u>	<u>1,004</u>
包括利益 (百万円)	<u>863</u>	<u>1,723</u>	<u>2,650</u>	<u>860</u>	<u>△429</u>
純資産額 (百万円)	<u>16,970</u>	<u>18,430</u>	<u>20,503</u>	<u>21,150</u>	<u>20,449</u>
総資産額 (百万円)	<u>56,790</u>	<u>59,823</u>	<u>63,703</u>	<u>62,045</u>	<u>59,389</u>
1株当たり純資産額 (円)	<u>199.68</u>	<u>215.70</u>	<u>239.85</u>	<u>246.01</u>	<u>237.56</u>
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△) (円)	<u>5.70</u>	<u>1.19</u>	<u>3.14</u>	<u>△22.18</u>	<u>12.27</u>
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	<u>28.8</u>	<u>29.5</u>	<u>30.8</u>	<u>32.5</u>	<u>32.8</u>
自己資本利益率 (%)	<u>2.8</u>	<u>0.6</u>	<u>1.4</u>	<u>△9.1</u>	<u>5.1</u>
株価収益率 (倍)	<u>22.3</u>	<u>363.0</u>	<u>73.2</u>	—	<u>10.4</u>
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	<u>3,992</u>	<u>2,275</u>	<u>2,916</u>	<u>2,179</u>	<u>4,732</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	<u>△3,561</u>	<u>△3,606</u>	<u>△2,370</u>	<u>△2,629</u>	<u>△3,024</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	729	673	△559	△1,385	△811
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	4,377	3,912	<u>4,325</u>	<u>2,797</u>	<u>3,727</u>
従業員数 (名)	3,808	3,731	<u>3,692</u>	<u>3,734</u>	<u>3,477</u>

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第113期、第114期、第115期、第117期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第116期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、1株当たり当期純損失が計上されており、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は就業人員であります。

4 第117期から「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成25年9月13日 企業会計基準第21号）等を適用し、「当期純利益又は当期純損失」を「親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失」としております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
決算年月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月
売上高 (百万円)	30,442	29,709	29,433	29,046	26,450
経常利益 (百万円)	353	548	666	1,007	1,685
当期純利益又は 当期純損失(△) (百万円)	197	556	717	△1,911	1,211
資本金 (百万円)	7,034	7,034	7,034	7,034	7,034
発行済株式総数 (株)	81,940,298	81,940,298	81,940,298	81,940,298	81,940,298
純資産額 (百万円)	17,207	17,705	18,347	16,838	17,809
総資産額 (百万円)	48,108	48,520	47,838	47,272	45,900
1株当たり純資産額 (円)	210.14	216.23	224.07	205.64	217.51
1株当たり配当額 (円)	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
(うち1株当たり中間 配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	2.64	6.80	8.77	△23.35	14.80
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	35.8	36.5	38.4	35.6	38.8
自己資本利益率 (%)	1.2	3.2	4.0	△10.9	7.0
株価収益率 (倍)	48.1	63.5	26.2	-	8.6
配当性向 (%)	75.8	29.4	22.8	-	13.5
従業員数 (名)	424	409	425	434	424

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第113期、第114期、第115期、第117期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第116期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、1株当たり当期純損失が計上されており、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は就業人員であります。

2 【沿革】

昭和10年10月	日本カーバイド工業株式会社を資本金83万7,500円をもって設立 本店を富山県下新川郡道下村本新751番地に設置
昭和11年1月	国産肥料株式会社を合併
昭和11年2月	工場操業開始（現魚津工場）
昭和15年1月	本店を東京市麹町区丸の内二丁目2番地1に移転
昭和16年6月	大阪駐在所設置（昭和37年8月大阪支店に改称）
昭和22年8月	三和化学工業株式会社設立（昭和42年5月株式会社三和ケミカルに商号変更、現連結子会社）
昭和24年5月	東京証券取引所に株式上場
昭和34年6月	早月工場建設
昭和36年7月	大阪証券取引所に株式上場
昭和37年4月	ビニフレーション工業株式会社設立（現連結子会社）
昭和38年8月	本店を東京都千代田区丸の内三丁目3番1号に移転
昭和44年7月	ダイヤモンドエンジニアリング株式会社設立（現連結子会社）
昭和55年1月	株式会社北陸セラミックに資本参加（現連結子会社）電子材料事業に進出
昭和63年4月	タイにTHAI DECAL CO., LTD. 設立（現連結子会社）
昭和63年10月	タイにELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO., LTD. 設立（現連結子会社）
平成2年1月	株式会社関東応化に資本参加（平成9年4月エヌシーアイ電子株式会社に商号変更、現連結子会社）
平成3年5月	ニッカポリマ株式会社を設立し再帰反射シート事業に進出（ニッカポリマ株式会社は平成25年6月に解散）
平成3年9月	米国にNIPPON CARBIDE INDUSTRIES (USA) INC. 設立（現連結子会社）
平成6年12月	インドネシアにPT ALVINY INDONESIA設立（現連結子会社）
”	中国に恩希愛（杭州）化工有限公司設立（平成27年11月恩希愛（杭州）薄膜有限公司に商号変更、現連結子会社）
平成9年2月	ベトナムにNCI (VIETNAM) CO., LTD. 設立（現連結子会社）
平成11年1月	米国にNIPPON CARBIDE INDUSTRIES (South Carolina) INC. 設立（現連結子会社）
平成11年8月	本店を東京都港区港南二丁目11番19号に移転
平成23年10月	インドにNIPPON CARBIDE INDIA PVT. LTD. 設立（現連結子会社）
平成24年1月	ニッセツ株式会社設立（平成26年12月当社により吸収合併）
<u>平成26年8月</u>	<u>ブラジルにNIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA. 設立（現連結子会社）</u>
平成26年12月	ニッセツ株式会社の吸収合併に伴い京都製造所設置
平成27年2月	本店を東京都港区港南二丁目16番2号に移転

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社23社及び関連会社2社で構成され、ファインケミカル製品、メラミン樹脂、接着製品及び各種ステッカー製品を主体とした機能製品、再帰反射シート製品、セラミック基板、厚膜印刷製品、プリント配線板等の電子・光学製品、住宅用アルミ建材等の製造販売を主体とした建材関連並びに産業プラントの設計・施工及び機器の製作等を主体としたエンジニアリングの事業を展開しております。

当社グループの事業に係る主な位置づけ並びにセグメントとの関連は、次のとおりであります。

機能製品 ……当社及び子会社NIPPON CARBIDE INDUSTRIES(South Carolina)INC.、NIPPON CARBIDE INDIA PVT.LTD.、THAI DECAL CO.,LTD.、NCI(VIETNAM)CO.,LTD.が製造販売するほか、子会社(株)三和ケミカルで製造した製品を当社で販売しております。また、子会社恩希愛(杭州)薄膜有限公司で製造した製品を主に当社で販売しております。

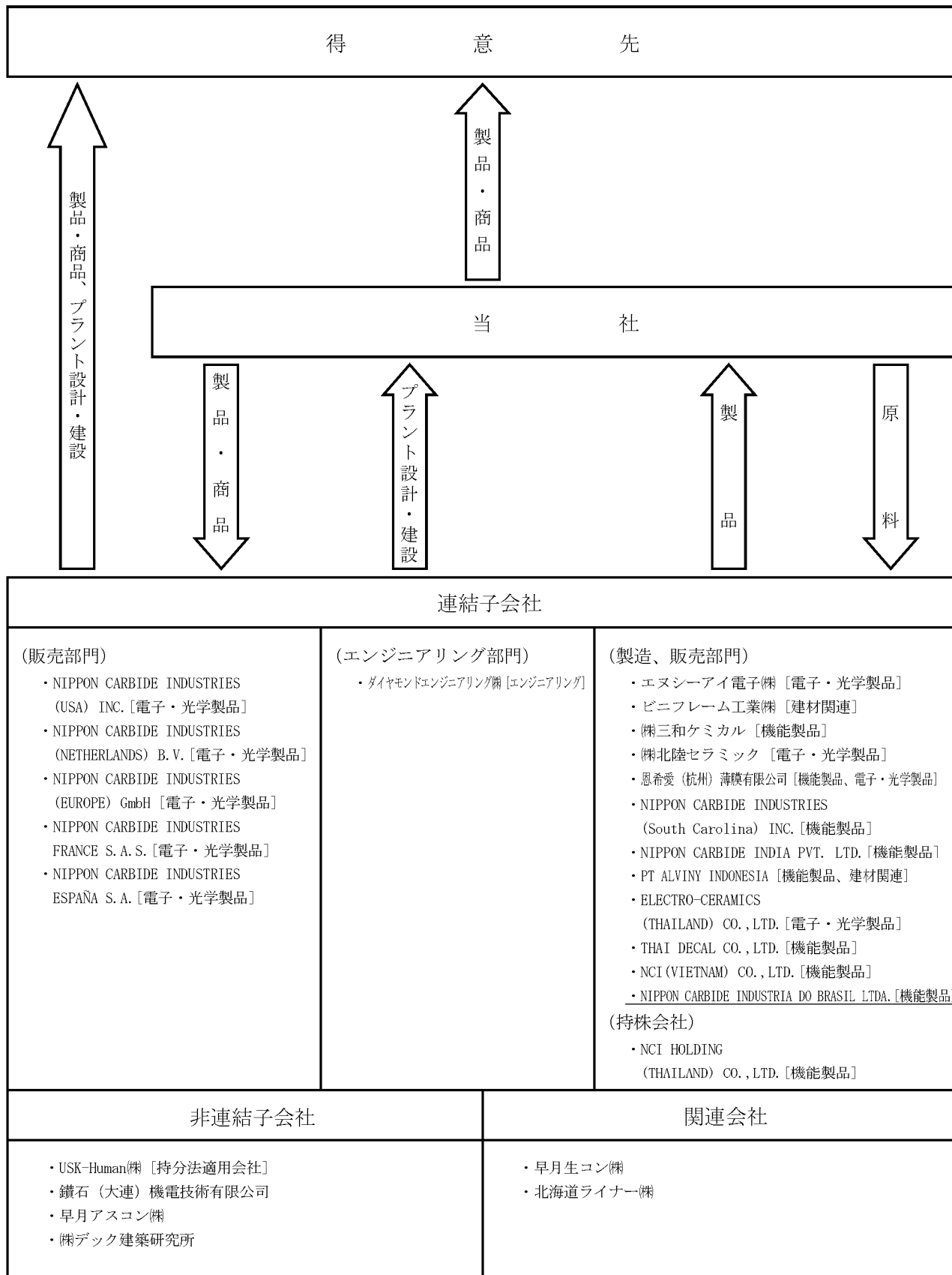
電子・光学製品 ……当社及び子会社ELECTRO-CERAMICS(THAILAND)CO.,LTD.が製造販売するほか、子会社エヌシーアイ電子(株)で製造した製品を当社で販売しております。また子会社恩希愛(杭州)薄膜有限公司で製造した製品を主に当社で販売しております。

建材関連 ……子会社ビニフレイム工業(株)が住宅用アルミ建材等を製造販売しております。

エンジニアリング ……子会社ダイヤモンドエンジニアリング(株)が産業プラントの設計・施工及び機器の製作等を行っております。

なお、次に記載しております事業の系統図中の「販売部門」として記載しております子会社NIPPON CARBIDE INDUSTRIES(USA)INC.ほか子会社各社は、主に当社の製品・商品販売しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



連結子会社、非連結子会社及び関連会社は、次のとおりであります。

連結子会社

エヌシーアイ電子(株)	プリント配線板の製造、販売
ビニフレイム工業(株)	アルミ建材等の製造、販売
(株)三和ケミカル	化学工業製品、医薬品の製造、販売
(株)北陸セラミック	工業用特殊磁器の製造、販売
ダイヤモンドエンジニアリング(株)	産業プラントの設計、監督、施工並びに工場諸施設の保全
恩希愛(杭州)薄膜有限公司	再帰反射シートの製造、販売
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (USA) INC.	再帰反射シートの輸入販売
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (South Carolina) INC.	トナー用樹脂の製造、販売
NIPPON CARBIDE INDIA PVT. LTD.	各種ステッカーの製造、販売
PT ALVINY INDONESIA	各種ステッカー、アルミ建材等の製造、販売
ELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO., LTD.	工業用特殊磁器の製造、販売
NCI HOLDING (THAILAND) CO., LTD.	THAI DECAL CO., LTD. の持株会社
THAI DECAL CO., LTD.	各種ステッカーの製造、販売
NCI (VIETNAM) CO., LTD.	〃
<u>NIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA.</u>	<u>〃</u>
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (NETHERLANDS) B. V.	再帰反射シートの輸入販売
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (EUROPE) GmbH	〃
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES FRANCE S. A. S.	〃
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES ESPAÑA S. A.	〃

非連結子会社

※USK-Human(株)	各種作業の請負
鑽石(大連)機電技術有限公司	機械設備の設計、輸出入業務及びソフトウェア、ハードウェアの開発、コンサルティング
早月アスコン(株)	アスファルトコンクリートの製造、販売
(株)デック建築研究所	土木建築に関する計画、調査、測量

関連会社

早月生コン(株)	生コンクリートの製造、販売
北海道ライナー(株)	道路標示及び一般塗装工事請負

※印は持分法適用会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有) 割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合 (%)	
(連結子会社) エヌシーアイ電子㈱	福島県須賀川市	450	電子・光学 製品	100.0	—	同社の製品を当社が販売しております。 役員の兼任 当社役員3名・従業員1名
ビニフレイム工業㈱ (注) 3	富山県魚津市	288	建材関連	69.0	—	当社の製品の一部を当社が販売して おります。 役員の兼任 当社役員2名
㈱三和ケミカル	神奈川県平塚市	200	機能製品	100.0	—	同社の製品を当社が販売して おります。 役員の兼任 当社役員2名・従業員3名
㈱北陸セラミック	富山県魚津市	400	電子・光学 製品	99.8	—	同社の製品を主に当社が販売して おります。 役員の兼任 当社役員2名・従業員3名
ダイヤモンドエンジニア リング㈱ (注) 3	富山県魚津市	90	エンジニア リング	100.0	—	当社の設備建設、補修工事を委託して おります。工場用地の賃貸があります。 役員の兼任 当社役員2名・従業員2名
※ 恩希愛(杭州)薄膜 有限公司	中国	41,250 千米・ドル	機能製品 電子・光学 製品	100.0	—	当社より再帰反射シートの原料を供給して おります。同社の製品を主に当社が販売し ております。同社より資金の一部を借入れ ております。 役員の兼任 当社役員2名・従業員5名
※ NIPPON CARBIDE INDUSTRIES(USA) INC.	米国	7,200 千米・ドル	電子・光学 製品	100.0	—	当社より再帰反射シートを輸出して おります。 役員の兼任 当社従業員3名
※ NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (South Carolina) INC.	米国	11,500 千米・ドル	機能製品	100.0	—	同社の製品を一部当社が販売して おります。 役員の兼任 当社従業員5名
※ NIPPON CARBIDE INDIA PVT. LTD.	インド	510,000 千インド・ ルピー	機能製品	100.0	—	当社より各種ステッカーの原料を供給して おります。当社より資金の一部を融資して おります。 役員の兼任 当社役員1名・従業員4名
PT ALVINY INDONESIA (注) 5	インドネシア	6,000 千米・ドル	機能製品 建材関連	100.0 (60.0)	—	当社より各種ステッカーの原料を供給して おります。当社より資金の一部を融資して おります。 役員の兼任 当社役員2名・従業員2名
※ ELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO., LTD.	タイ	380,000 千タイ・ パーツ	電子・光学 製品	100.0	—	当社よりアルミナ粉等の原料を供給して おります。同社の製品を主に当社が販売し ております。当社より資金の一部を融資して おります。 役員の兼任 当社従業員4名
NCI HOLDING (THAILAND) CO., LTD. (注) 4	タイ	2,000 千タイ・ パーツ	機能製品	49.0	—	THAI DECAL CO., LTD. の持株会社 役員の兼任 当社従業員3名
THAI DECAL CO., LTD. (注) 5	タイ	82,500 千タイ・ パーツ	機能製品	91.5 (42.5)	—	当社より各種ステッカーの原料を供給して おります。 役員の兼任 当社役員1名・従業員3名
NCI (VIETNAM) CO., LTD.	ベトナム	2,000 千米・ドル	機能製品	90.0	—	当社より各種ステッカーの原料を供給して おります。 役員の兼任 当社役員1名・従業員3名
<u>NIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA.</u>	<u>ブラジル</u>	<u>11,500 千ブラジル・ リアル</u>	機能製品	<u>100.0</u>	<u>二</u>	<u>当社より各種ステッカーの原料を供給して おります。当社より資金の一部を融資して おります。 役員の兼任 当社従業員2名</u>

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有) 割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合 (%)	
(連結子会社) NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (NETHERLANDS) B. V.	オランダ	2,677 千ユーロ	電子・光学 製品	100.0	—	当社より再帰反射シートを輸出しております。 役員の兼任 当社従業員 4名
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (EUROPE) GmbH	ドイツ	613 千ユーロ	電子・光学 製品	100.0	—	当社より再帰反射シートを輸出しております。 役員の兼任 当社従業員 4名
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES FRANCE S. A. S.	フランス	310 千ユーロ	電子・光学 製品	100.0	—	当社より再帰反射シートを輸出しております。 役員の兼任 当社従業員 3名
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES ESPAÑA S. A.	スペイン	90 千ユーロ	電子・光学 製品	100.0	—	当社より再帰反射シートを輸出しております。 役員の兼任 当社従業員 4名
(持分法適用子会社) USK-Human(株)	富山県魚津市	20	全社 (共通)	100.0	—	当社の各種作業を委託しております。 役員の兼任 当社従業員 6名

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 会社の名称欄※印は、特定子会社に該当しております。

3 ビニフレーム工業(株)及びダイヤモンドエンジニアリング(株)については、売上高 (連結会社間の内部売上高を除く。) の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

なお、主要な損益情報等は次のとおりであります。

名称	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	純資産額 (百万円)	総資産額 (百万円)
ビニフレーム工業(株)	10,329	337	228	1,579	6,308
ダイヤモンドエンジニアリング(株)	<u>6,839</u>	<u>166</u>	<u>28</u>	<u>225</u>	<u>6,662</u>

4 持分は100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため、子会社としております。

5 議決権所有割合の () 書きは間接所有割合を示しており、内数であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成28年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（名）
機能製品	1,394
電子・光学製品	1,527
建材関連	290
エンジニアリング	180
全社（共通）	86
合計	3,477

(注) 従業員数は就業人員（当社グループ外から当社グループへの出向者及び嘱託社員を含み、当社グループから当社グループ外への出向者、パートタイマー及び人材会社からの派遣社員を除いております。）であります。

(2) 提出会社の状況

平成28年3月31日現在

従業員数（名）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
424	42.0	18.9	5,617

セグメントの名称	従業員数（名）
機能製品	250
電子・光学製品	88
全社（共通）	86
合計	424

(注) 1 従業員数は就業人員（他社から当社への出向者及び嘱託社員を含み、当社から他社への出向者、パートタイマー及び人材会社からの派遣社員を除いております。）であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社グループには、当社に2つの労働組合があるほか、国内に3つの労働組合があります。
なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、米国は緩やかに景気回復を続けているものの、中国、アジア新興国や資源国では景気減速が顕著になるなど、不透明な状況で推移しました。一方、わが国では、企業収益や所得・雇用環境が改善し、個人消費も底堅さが見られるなど、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループにおいては、機能製品分野では、原材料価格の低下などによる収益の改善がある一方、東南アジア地域での市況低迷などによる影響を受けたほか、電子・光学製品分野や建設・建材関連分野では、需要縮小などによる影響もあり、各分野ともに減収となりました。

このような状況のもと、当社グループの当連結会計年度の業績は、売上高は50,182百万円と前連結会計年度比6,582百万円（11.6%減）の減収、営業利益は2,101百万円と前連結会計年度比584百万円（38.5%増）の増益、経常利益は2,255百万円と前連結会計年度比615百万円（37.5%増）の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は減損損失や法人税等調整額の減少などにより、1,004百万円（前連結会計年度は1,815百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

なお、当連結会計年度より、NIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA.を連結の範囲に含めております。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(機能製品)

当該事業の主な取扱製品は、ファインケミカル製品、メラミン樹脂、接着製品、マーキングフィルム、ステッカー、包装用フィルムなどであります。

このうち、ファインケミカル製品は農薬関連向けや電子材料向けが順調に推移し、前連結会計年度比増収となりました。メラミン樹脂製品は海外向けは堅調でしたが、国内向けが振るわず、前連結会計年度比減収となりました。接着製品は化粧品分野への拡販はあったものの、光学関連分野向けが振るわず、前連結会計年度比減収となりました。マーキングフィルムは海外向けは堅調でしたが、国内向けが低調に推移し、前連結会計年度比減収となりました。ステッカーは東南アジア地域での減収により、前連結会計年度比減収となりました。包装用フィルムは国内向けが低迷し、前連結会計年度比減収となりました。

以上により、機能製品の売上高は23,381百万円と前連結会計年度比1,810百万円（7.2%減）の減収となったものの、原材料価格の低下や生産性の向上、経費等の削減などにより、セグメント利益は2,500百万円と前連結会計年度比469百万円（23.1%増）の増益となりました。

(電子・光学製品)

当該事業の主な取扱製品は、再帰反射シート、セラミック基板、厚膜印刷製品、プリント配線板などです。

このうち、再帰反射シートは欧州向けが低調に推移し、前連結会計年度比減収となりました。セラミック基板はスマートフォン向けやデジタル家電向けが低迷し、前連結会計年度比減収となりました。プリント配線板はアミューズメント関連をはじめ総じて振るわず、前連結会計年度比減収となりました。

以上により、電子・光学製品の売上高は12,355百万円と前連結会計年度比2,762百万円（18.3%減）の減収、セグメント損失は622百万円（前連結会計年度は73百万円のセグメント損失）となりました。

(建材関連)

当該事業の主な取扱製品は、住宅用アルミ建材などです。

住宅用アルミ建材は主力の手摺、笠木等の販売が消費税増税前の需要増があった前連結会計年度に比べ減収となりました。

以上により、建材関連の売上高は10,475百万円と前連結会計年度比261百万円（2.4%減）の減収、セグメント利益は366百万円と前連結会計年度比57百万円（13.5%減）の減益となりました。

(エンジニアリング)

当該事業の主な事業内容は、産業プラントの設計・施工などです。

産業プラントの設計・施工は国内外向けの大型工事案件の完工が減少しました。

以上により、エンジニアリングの売上高は6,838百万円と前連結会計年度比277百万円（3.9%減）の減収となったものの、セグメント利益は166百万円（前連結会計年度は351百万円のセグメント損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度は、営業活動によるキャッシュ・フローは4,732百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローは3,024百万円の支出となり、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動と投資活動による各キャッシュ・フローの合計）は1,708百万円の収入（前連結会計年度は450百万円の支出）となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは811百万円の支出となりました。また、現金及び現金同等物の期末残高は前連結会計年度末比929百万円増加して3,727百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、運転収支の改善や法人税等の支払額の減少などにより、前連結会計年度比2,553百万円収入が増加しました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出の増加などにより、前連結会計年度比395百万円支出が増加しました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済はあったものの、環境経営支援ローンなど長期借入金の調達などもあり、前連結会計年度比574百万円支出が減少しました。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
機能製品	20,101	<u>△7.2</u>
電子・光学製品	11,218	△14.5
建材関連	3,921	△7.1
エンジニアリング	<u>520</u>	<u>2.2</u>
合計	<u>35,760</u>	<u>△9.5</u>

(注) 1 生産金額は、平均販売価格により算出したものであります。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高（百万円）	前期比（％）	受注残（百万円）	前期比（％）
機能製品	—	—	—	—
電子・光学製品	6,005	△20.3	1,195	△12.3
建材関連	—	—	—	—
エンジニアリング	7,733	58.9	4,288	17.2
合計	13,738	10.8	5,483	9.2

(注) 1 一部の子会社を除き、受注生産は行っておりません。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
機能製品	23,381	<u>△7.2</u>
電子・光学製品	12,355	△18.3
建材関連	10,475	△2.4
エンジニアリング	<u>6,838</u>	<u>△3.9</u>
調整額	<u>△2,867</u>	—
合計	<u>50,182</u>	<u>△11.6</u>

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2 調整額の内容については、「注記事項 セグメント情報」に記載のとおりであります。

3 【対処すべき課題】

今後のわが国経済並びに世界経済は、一部に不透明さは残るものの、総じて緩やかに景気回復が継続するものと期待されます。

このような認識のもと、当社グループは、2016年度を次なる成長の足掛かりを築く年として、グループの総力を挙げてその目標達成に向け取り組んでまいります。

具体的には、

《重点施策》

- ① 安全な職場の確保と品質クレームの撲滅について、より高いレベルを目指す
- ② 継続する増収増益への道筋をつける
 - ・各事業部門での事業の選択と集中を徹底し、次なる成長の足掛かりを築く
 - ・新研究開発センターを中心に部門間シナジーを更に発展させ、収益力を強化する
 - ・従業員一人一人の熱意・挑戦・気概により、グループの組織力・対応力を高める
- ③ コミュニケーションレベルを上げ、明るく能動的な組織風土へ着実に変えていく

《行動目標》

成長・発展の原動力は自分との認識を持ち、増収増益に結び付く行動を起こそう！

これらを2016年度の合言葉「*Proceed to the next stage! 次なる成長に挑もう!*」のもと実行してまいります。

また、当社グループは、現在の経済環境と今後の景気見通しをベースに事業状況を見据え、今般、2016年度を初年度とする新たな3ヶ年の中期経営プラン“*ACTIVE-2018*”を策定し、「増収増益を継続して達成できる企業グループを実現する」を基本方針として取り組んでまいります。

なお、最終年度である2018年度（平成31年3月期）には、以下の経営指標の達成を目指すことといたしました。

2018年度（平成31年3月期）目標

売上高	600億円以上
経常利益	35億円以上

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成28年6月29日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 原材料価格の変動

当社グループ製品の原材料は、ナフサ価格や金属価格の変動の影響を受けることがあるため、当社グループは、原材料の調達に関して最も有利な調達になるよう努力しておりますが、特に接着製品、電子・光学製品、産業プラントの設計・施工、住宅用アルミ建材等の事業で、原材料価格の変動をタイムリーに製品価格に転嫁できず、これらがコスト削減額を上回った場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(2) 金利の変動

当社グループは、当連結会計年度末において長期・短期借入金及び受取手形割引高として合計約197億円の有利子負債を有しております。グループ各社は一部金利の固定化や、極力低金利での調達に努めていますが、グループ全体としてはいまだ有利子負債依存度が高いこともあり、今後の金利環境等の動向が当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 為替レートの変動

当社グループは、電子・光学製品を中心として海外で大きく事業展開を図っております。その結果、為替レートの変動はストック面では連結財務諸表の換算において、フロー面では販売価格の設定や仕入価格において当社グループの経営成績、財政状態及び将来の業績に影響を与えます。

(4) 固定資産の価値下落

当社グループが保有している固定資産について、時価の下落・収益性の低下等や遊休資産化に伴い資産価値が低下した場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 海外での事業活動

当社グループは、連結子会社の過半が在外子会社であり、世界各地で生産活動や販売活動を行っております。これらの海外拠点では、予期できない法律、規制、税制の変更やテロ・戦争・その他の要因による社会的、政治的混乱等のリスクが存在します。これらのリスクが顕在化した場合は、海外での事業活動に支障をきたし、当社グループの経営成績、財政状態及び将来の業績に影響を与えます。

(6) 新規事業への参入

当社グループは、新たな成長分野、成長市場への参入が会社の持続的発展に資するとの認識のもと、グループビジョンの重点施策のひとつとして「新規事業の推進・確立」を掲げております。

なお、新規事業への参入にあたっては、その市場性や採算性などを十分に検討した上で意思決定を行いますが、それでも当社グループサイド、顧客サイドにおいて不確定要因が存在し、当初予定した事業計画を達成できず、投資に見合うだけの収益を将来にわたって獲得できない場合があります。その場合は、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 事故災害

当社グループの各工場においては、事故や災害による損害防止のため、日常において設備の点検や各種安全活動等を行っています。しかし、これらの活動等にもかかわらず、万一、火災・爆発等の事故災害が発生し、当社グループの業務や地域社会に大きな影響を及ぼした場合、生産活動による機会損失や補償等を含む事故対応費用等が、当社グループの経営成績、財政状態及び将来の業績に影響を与える可能性があります。

(8) 自然災害等

当社グループは、地震等の自然災害の比較的多い日本国内に当社及び子会社が生産拠点を有しております。万一これらの生産設備が被災した場合、操業の一部又は全部が停止し、生産や出荷に著しく支障をきたす恐れがあります。加えて、設備等の修復に多額の費用が発生し、経営成績及び財政状態に重大な影響を及ぼす可能性があります。なお、当社グループの生産設備が被災しなかった場合においても、原材料の仕入先又は製品の販売先等の被災、自然災害に起因する経済活動の停滞、電力不足に伴う工場稼働への制約等により、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは日本国内をはじめ中国、東南アジア、欧州、米国にも生産拠点並びに営業拠点を展開しておりますが、これらの拠点で新型インフルエンザが発生し、当該地域のグループ会社の従業員等が罹患した場合は、通常の事業活動が困難になる恐れがあります。この新型インフルエンザの影響が長期にわたる場合は、売上高の減少等により、経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(9) 訴訟等

当社グループでは、コンプライアンスの重要性を認識し、法令及び社会的ルールの遵守の徹底を図っております。当連結会計年度末において、当社グループの事業に重大な影響を及ぼす訴訟は提起されていませんが、国内及び海外事業においては常に訴訟の対象となるリスクが存在しているものと考えております。将来、重要な訴訟が提起された場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 製造物責任

当社グループは、各々の製品の特性に応じて最適な品質・性能の確保に万全を期しておりますが、予期せぬ事情により大規模な製品事故が発生する可能性があります。万一の場合に備えて賠償責任保険を付保しておりますが、そのカバーを超えて費用が発生するリスクがあります。この場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 環境規制

主に製造業を営む当社グループは、生産効率向上による環境負荷の低減と省資源・省エネルギーに取り組んでおります。しかしながら、環境関連規制は年々強化・見直しされる方向にあり、規制の内容によっては製造、保管、処分等に関連する費用が発生し、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動につきましては、素材部門から高付加価値部門への展開を図るなかで、コア事業及びコア技術に重点を置くという当社の基本方針を踏まえ、グループ各社とも研究開発のテーマを厳選し、早期に事業化を図るべく注力しております。

特に新規商品開発に関しましては、当社のコア技術であるフィルム・シート技術と樹脂重合技術、セラミックスの焼成技術を融和させてIT関連、環境対応関連の製品開発に積極的な活動を行っております。

セグメントごとの研究開発活動を示すと、次のとおりであります。

(機能製品)

基礎化学品については、医薬・農薬向けや電子材料分野に、シアナミド、アセチレンの新規誘導体の開発を中心としたファインケミカル製品の研究開発を行っております。

樹脂分野では、高機能フィルム向け粘着剤やコーティング剤の開発を中心に、光学材料向けの樹脂開発や医療・化粧品及び環境対応樹脂の開発にも注力しております。

メラミン樹脂では、市場のニーズに合わせたコンパウンドや金型クリーニング材の開発に加えて、メラミンコンパウンドの特性を活用した新製品、新技術の開発に注力しております。

フィルム関連製品では、二輪や四輪向け装飾用フィルムや一体成形用フィルム及びレーザー印字等の特殊ラベルを中心とした新製品の開発を重点に研究開発を行っております。

研究開発費の金額は979百万円であります。

(電子・光学製品)

再帰反射シートについては、高品質、機能付与による使用範囲の拡大等を重点とした研究開発を行っております。

プリント配線板、アルミナセラミック事業では安定な成長を図るため、各製品の高性能化、高付加価値化とセラミックパッケージ等の応用商品の開発に取り組んでおります。

研究開発費の金額は626百万円であります。

(建材関連)

住宅用アルミ建材では簡易取付工法の手摺、ビル用建材では高意匠の硝子手摺の開発に取り組んでおります。また、室内用建材では環境問題・高機能を重視した商品の開発に取り組んでおります。

研究開発費の金額は143百万円であります。

(エンジニアリング)

産業プラント分野では、特殊パルプの内製化技術の開発や石炭ガス化複合発電における高圧化での安定的な微粉炭吹き込み技術の開発に取り組んでおります。

研究開発費の金額は70百万円であります。

なお、当連結会計年度における研究開発費の総額は2,027百万円であり、これには上記の各セグメントに含まれない新製品の開発のほか、改良研究や技術サービスなど新規事業開発に係る研究開発費208百万円が含まれております。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループは、グループ全体の経営方針に基づき各々の会社が経営施策を実施するなかで健全な財務体質の会社を作り上げていくことを基本的な財務方針としております。

連結財務諸表の作成にあたっては、重要な会計方針と合理的と考えられる見積りに基づき、収益、費用、資産、負債の計上について判断しております。見積りにつきましては不確実性があるため、実際の結果と異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末比2,655百万円減少し、59,389百万円となりました。

このうち、流動資産は、大口債権の回収に伴う受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末比1,434百万円減少し、29,275百万円となりました。固定資産は、連結の範囲の変更に伴う投資有価証券の減少などにより、前連結会計年度末比1,220百万円減少し、30,114百万円となりました。

当連結会計年度末における負債は、前期末比1,954百万円減少し、38,940百万円となりました。

このうち、流動負債は、支払手形及び買掛金の減少や短期借入金の返済などにより、前連結会計年度末比2,904百万円減少し、24,374百万円となりました。固定負債は、環境経営支援ローンなど長期借入金の調達などにより、前連結会計年度末比950百万円増加し、14,566百万円となりました。

当連結会計年度末における純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上はあったものの、円高に伴う為替換算調整勘定の減少などにより、前連結会計年度末比700百万円減少し、20,449百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の32.5%から0.3ポイント改善し、32.8%となりました。

(3) キャッシュ・フローの分析

「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因

「4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

(5) 経営成績の分析

「1 業績等の概要 (1) 業績」に記載のとおりであります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資額は、2,875百万円であり、主なものは次のとおりであります。

新研究開発センター建設工事（当社）

電子・光学製品製造設備増強工事（恩希愛（杭州）薄膜有限公司）

なお、設備資金については、主に金融機関からの借入れにより調達いたしました。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社 (東京都港区他)	機能製品 電子・光学 製品	管理・ 販売設備	37	—	18 (9)	0	25	81	103
魚津工場 (富山県魚津市)	機能製品	生産設備	<u>1,295</u>	<u>347</u>	4,043 (264)	590	70	<u>6,347</u>	89
早月工場 (富山県滑川市)	機能製品 電子・光学 製品	生産設備	<u>897</u>	<u>1,897</u>	5,765 (602)	14	83	<u>8,658</u>	161
京都製造所 (京都府向日市)	機能製品	生産設備	<u>34</u>	<u>74</u>	44 (5)	—	1	<u>155</u>	21
研究開発センター (栃木県佐野市)	機能製品	研究開発設備	104	12	455 (25)	—	15	588	28
研究開発センター (神奈川県平塚市)	機能製品	研究開発設備	24	1	— (—)	—	9	35	9

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額（百万円）						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他	合計	
ビニフレーム工業㈱	本社工場 (富山県魚津市)	建材関連	生産 設備	<u>469</u>	176	612 (51)	7	30	<u>1,295</u>	217
㈱北陸セラミック	本社工場 (富山県魚津市)	電子・光学 製品	生産 設備	<u>98</u>	76	284 (33)	—	12	<u>471</u>	66
ダイヤモンド エンジニアリング㈱	本社 (富山県魚津市)	エンジニア リング	生産 設備	147	156	37 (1)	37	52	431	180

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他	合計	
恩希愛 (杭州) 薄膜 有限公司	本社工場 (中国)	機能製品 電子・光学 製品	生産 設備	686	1,910	— (—)	—	162	2,759	434
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (South Carolina) INC.	本社工場 (米国)	機能製品	生産 設備	271	130	155 (260)	—	—	557	18
NIPPON CARBIDE INDIA PVT. LTD.	本社工場 (インド)	機能製品	生産 設備	563	130	206 (18)	—	9	909	44
PT ALVINY INDONESIA	本社工場 (インドネシア)	機能製品 建材関連	生産 設備	85	119	182 (40)	—	0	388	286
ELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO., LTD.	本社工場 (タイ)	電子・光学 製品	生産 設備	129	520	70 (65)	148	193	1,062	887
THAI DECAL CO., LTD.	本社工場 (タイ)	機能製品	生産 設備	483	205	223 (14)	—	71	983	260
NCI (VIETNAM) CO., LTD.	本社工場 (ベトナム)	機能製品	生産 設備	375	189	— (—)	—	83	649	454
<u>NIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA.</u>	<u>本社工場 (ブラジル)</u>	機能製品	生産 設備	<u>79</u>	<u>90</u>	<u>— (—)</u>	<u>—</u>	<u>4</u>	<u>174</u>	<u>33</u>
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (NETHERLANDS) B. V.	本社 (オランダ)	電子・光学 製品	販売 設備	29	9	58 (23)	—	3	102	10

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定を含んでおりません。
2 提出会社の本社には、千葉県千葉市の土地が含まれております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループの設備投資については、今後の需要予測や利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。設備投資計画は、連結各社が個別に策定しておりますが、提出会社においてグループ全体での調整を図っております。

当連結会計年度後1年間の設備投資計画（新設・拡充）は、3,200百万円であり、セグメントごとの内訳は、次のとおりであります。

セグメントの名称	平成28年3月末 計画金額 (百万円)	設備等の主な内容・目的	資金調達方法
機能製品	1,050	設備更新及び合理化投資	自己資金及び借入金
電子・光学製品	610	金型等の製作及び設備の更新	〃
建材関連	550	〃	〃
エンジニアリング	20	試験設備の更新	〃
小計	2,230	—	—
消去又は全社	970	—	—
合計	3,200	—	—

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成28年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成28年6月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	81,940,298	81,940,298	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	81,940,298	81,940,298	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年9月14日 (注)1	13,000,000	79,990,298	727	6,924	727	2,295
平成23年9月28日 (注)2	1,950,000	81,940,298	109	7,034	109	2,404

(注)1 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 118円
発行価額 111.90円
資本組入額 55.95円
払込金総額 1,454百万円

2 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

発行価格 111.90円
資本組入額 55.95円
払込金総額 218百万円

割当先 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

(6) 【所有者別状況】

平成28年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数1,000株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	29	48	71	64	6	7,530	7,748	—
所有株式数（単元）	—	19,928	3,370	14,677	3,527	12	40,256	81,770	170,298
所有株式数の割合（%）	—	24.37	4.12	17.95	4.31	0.01	49.23	100	—

（注） 自己株式61,130株は「個人その他」に61単元、「単元未満株式の状況」に130株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成28年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
旭硝子株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号	7,812	9.53
デンカ株式会社	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号	4,098	5.00
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	3,329	4.06
明治安田生命保険相互会社 （常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社）	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 （東京都中央区晴海一丁目8番12号）	2,800	3.42
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	2,700	3.30
三菱UFJ信託銀行株式会社 （常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社）	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 （東京都港区浜松町二丁目11番3号）	2,418	2.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,581	1.93
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,218	1.49
日本カーバイド工業従業員持株会	東京都港区港南二丁目16番2号	769	0.94
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO （常任代理人 シティバンク銀行株式会社）	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA （東京都新宿区新宿六丁目27番30号）	760	0.93
計	—	27,485	33.54

（注） 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから平成27年3月16日付の大量保有報告書の変更報告書の写しの送付があり、平成27年3月9日現在で株式会社三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ投信株式会社及び三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が共同保有者として以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況は、株主名簿上の所有株式数に基づき記載しております。
なお、当該変更報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	3,329	4.06
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	3,538	4.32
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	152	0.19
三菱UFJモルガン・スタンレー 証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	489	0.60

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 61,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 81,709,000	81,709	同上
単元未満株式	普通株式 170,298	—	—
発行済株式総数	81,940,298	—	—
総株主の議決権	—	81,709	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式130株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 日本カーバイド工業 株式会社	東京都港区港南 二丁目16番2号	61,000	—	61,000	0.07
計	—	61,000	—	61,000	0.07

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	2,200	407,694
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成28年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	61,130	—	61,130	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成28年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、将来の事業展開と経営環境の変化に対応できる企業にしていくとともに、株主の皆様に対する利益配分を重要な責務と考え、長期安定的な配当を実現できることを基本方針としております。また、当社は中間配当を行うことができる旨を定款で定めており、当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。なお、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の配当金につきましては、上記方針に基づき、1株当たり2円の期末配当を実施することとさせていただきます。

内部留保につきましては、設備投資、研究開発等の事業基盤の強化のための資金としての活用を考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成28年6月29日 定時株主総会決議	163	2

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
最高(円)	216	535	794	311	253
最低(円)	95	95	210	196	106

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部の市場相場によるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年10月	11月	12月	平成28年1月	2月	3月
最高(円)	195	192	191	168	140	136
最低(円)	172	178	151	121	106	117

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部の市場相場によるものであります。

5 【役員 の 状 況】

男性 9名 女性 一名 (役員のうち女性の比率 ー%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 取締役社長 社長執行役員		松尾 時雄	昭和32年4月26日生	昭和55年4月 平成18年1月 " 22年1月 " 28年1月 " 28年3月 " 28年6月	旭硝子(株)入社 同社エンジニアリングセンター長 同社執行役員CSR室長 同社執行役員社長付 当社顧問 代表取締役社長 社長執行役員 (現任)	(注) 5	ー
代表取締役 専務執行役員	経営全般補佐、 管理部門 担当役員、 業務監査室担当	西村 文男	昭和32年10月15日生	昭和56年4月 平成13年5月 " 15年1月 " 17年3月 " 19年4月 " 20年9月 " 22年6月 " 23年6月 " 25年5月 " 25年6月 " 26年4月 " 28年6月	(株)三菱銀行 (現(株)三菱東京UFJ銀行) 入行 同行碑文谷支社長 同行融資部次長 同行築地支社長 同行中野駅前支社長 同行大宮支社長 エムエステイ保険サービス(株) 常務取締役 同社専務取締役 当社顧問 常務取締役管理部門担当役員、経営 管理室長兼業務監査室長 常務取締役経営全般補佐、管理部門 担当役員、業務監査室長 代表取締役専務執行役員経営全般補 佐、管理部門担当役員、業務監査室 担当 (現任)	(注) 4	6
取締役 専務執行役員	電子・光学製品 事業本部長 兼経営企画室長	藤川 利倫	昭和31年5月31日生	昭和54年4月 平成19年4月 " 20年6月 " 22年4月 " 23年10月 " 25年4月 " 25年6月 " 25年12月 " 26年4月 " 28年6月	当社入社 化成産品事業部長 取締役化成産品事業部長 取締役中国事業戦略室長 取締役機能フィルム事業部長 兼中国事業戦略室長 取締役機能製品事業本部長 常務取締役機能製品事業本部長 兼経営企画室長 常務取締役機能製品事業本部長 兼経営企画室長、購買部長 常務取締役電子・光学製品事業本部 長兼経営企画室長 取締役専務執行役員電子・光学製品 事業本部長兼経営企画室長 (現任)	(注) 5	68
取締役 執行役員	技術担当役員、 機能製品 事業本部長	芹沢 洋	昭和33年2月28日生	昭和55年4月 平成16年4月 " 19年4月 " 23年4月 " 23年6月 " 24年4月 " 25年4月 " 27年4月 " 28年6月	当社入社 化成産品事業部トナー樹脂ビジネスユ ニットリーダー 化成産品事業部機能樹脂ビジネスユ ニットリーダー兼トナー樹脂ビジネス ユニットリーダー 化成産品事業部長兼機能樹脂 ビジネスユニットリーダー 取締役化成産品事業部長兼機能樹脂 ビジネスユニットリーダー 取締役化成産品事業部長 取締役電子・光学製品事業本部 電子部材事業部長 取締役機能製品事業本部長 取締役執行役員技術担当役員、機能 製品事業本部長 (現任)	(注) 4	26

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役		近藤 基	昭和36年5月26日生	昭和60年4月 " 62年3月 " 62年4月 平成元年4月 " 20年7月 " 25年6月 " 27年7月	新潟県職員採用 同上退職 司法修習生採用 弁護士登録（現任） 小野孝男法律事務所入所 弁護士法人小野総合法律事務所社員 （パートナー） 当社取締役（現任） 弁護士法人小野総合法律事務所代表 社員（現任）	(注) 4	—
取締役		小竹 延和	昭和26年1月1日生	昭和49年4月 平成12年6月 " 15年4月 " 16年1月 " 19年4月 " 22年4月 " 25年4月 " 28年6月	㈱小松製作所入社 同社開発本部建機第一開発センタ所 長 同社執行役員開発本部建機第一開発 センタ所長 同社執行役員開発本部副本部長 同社常務執行役員開発本部長 同社中国副総代表 同社シニア・フェロー（現任） 当社取締役（現任）	(注) 5	—
常勤監査役		熊澤 信介	昭和31年4月26日生	昭和54年4月 平成11年5月 " 13年1月 " 13年5月 " 15年5月 " 18年5月 " 20年6月 " 24年2月 " 28年6月	㈱三菱銀行（現㈱三菱東京UFJ銀 行）入行 同行都立大学駅前支店長 同行碑文谷支社長 同行法人営業部副部長 同行リテール人事室長 同行渋谷支店長 三菱UFJローンビジネス㈱代表取 締役社長 ㈱ジャルカード常勤監査役 当社常勤監査役（現任）	(注) 7	—
常勤監査役		赤木 裕	昭和29年9月29日生	昭和53年4月 平成14年4月 " 16年7月 " 18年4月 " 20年4月 " 22年1月 " 24年6月 " 25年3月 " 25年6月	旭硝子㈱入社 同社化学品カンパニー企画・ 管理室長 同社化学品カンパニー品質保証室長 同社鹿島工場長 同社化学品カンパニーCSR室長 同社執行役員化学品カンパニー事業 統括本部長 同社執行役員化学品カンパニー技術 統括本部長 同社退職 当社常勤監査役（現任）	(注) 3	6
監査役		早田 一人	昭和27年9月14日生	昭和50年4月 平成8年7月 " 17年2月 " 18年11月 " 21年3月 " 23年3月 " 27年3月 " 27年6月	旭硝子㈱入社 同社資材・物流部原料資源グループ 担当部長 サイアム旭テクノグラス㈱代表取締 役社長 旭硝子㈱経営企画室調査役 旭硝子（上海）管理諮詢有限公司董 事長 AGC保険マネジメント㈱代表取締 役社長 同社代表取締役社長退任 当社監査役（現任）	(注) 6	—
計	—	—	—	—	—	—	106

- (注) 1 取締役のうち、近藤 基、小竹 延和の両氏は社外取締役であります。
- 2 監査役3名は、全員社外監査役であります。
- 3 平成25年3月期に係る定時株主総会の終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 4 平成27年3月期に係る定時株主総会の終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 5 平成28年3月期に係る定時株主総会の終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 6 平成27年3月期に係る定時株主総会の終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 7 平成28年3月期に係る定時株主総会の終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 8 当社は、法令又は定款に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
早勢 隆	昭和27年5月29日生	昭和50年4月 当社入社 平成16年4月 電子部材事業部長 " 16年6月 取締役 社長特命事項担当(営業)、電子部材事業部長 " 19年6月 取締役生産技術部、品質・環境管理部管掌、魚津・早月工場長 " 22年6月 常務取締役魚津・早月工場、生産技術部、購買部管掌、電子部材事業部長 " 24年6月 専務取締役技術担当役員、電子部材事業部長 " 25年4月 専務取締役技術担当役員、電子・光学製品事業本部長兼研究開発センター長 " 25年6月 代表取締役専務取締役技術担当役員、電子・光学製品事業本部長兼研究開発センター長 " 26年4月 代表取締役専務取締役経営全般補佐、技術担当役員、研究開発センター長 " 27年4月 代表取締役専務取締役経営全般補佐、技術担当役員、グループ安全・品質改善担当 " 28年6月 顧問(現任)	90

- 9 当社は、執行役員制度を導入しております。執行役員8名の構成は次のとおりであります。

役位	氏名	担当業務
※ 社長執行役員	松尾 時雄	
※ 専務執行役員	西村 文男	経営全般補佐、管理部門担当役員、業務監査室担当
※ 専務執行役員	藤川 利倫	電子・光学製品事業本部長兼経営企画室長
※ 執行役員	芹沢 洋	技術担当役員、機能製品事業本部長
執行役員	新夕 秀典	研究開発センター長
執行役員	上前 昌己	機能製品事業本部フィルム事業部長
執行役員	梶井 久稔	電子・光学製品事業本部反射事業部長兼機能製品事業本部包材事業部長
執行役員	長谷川 幸伸	機能製品事業本部機能樹脂事業部長兼大阪支店長

※印の4名は、取締役を兼務しております。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

※ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

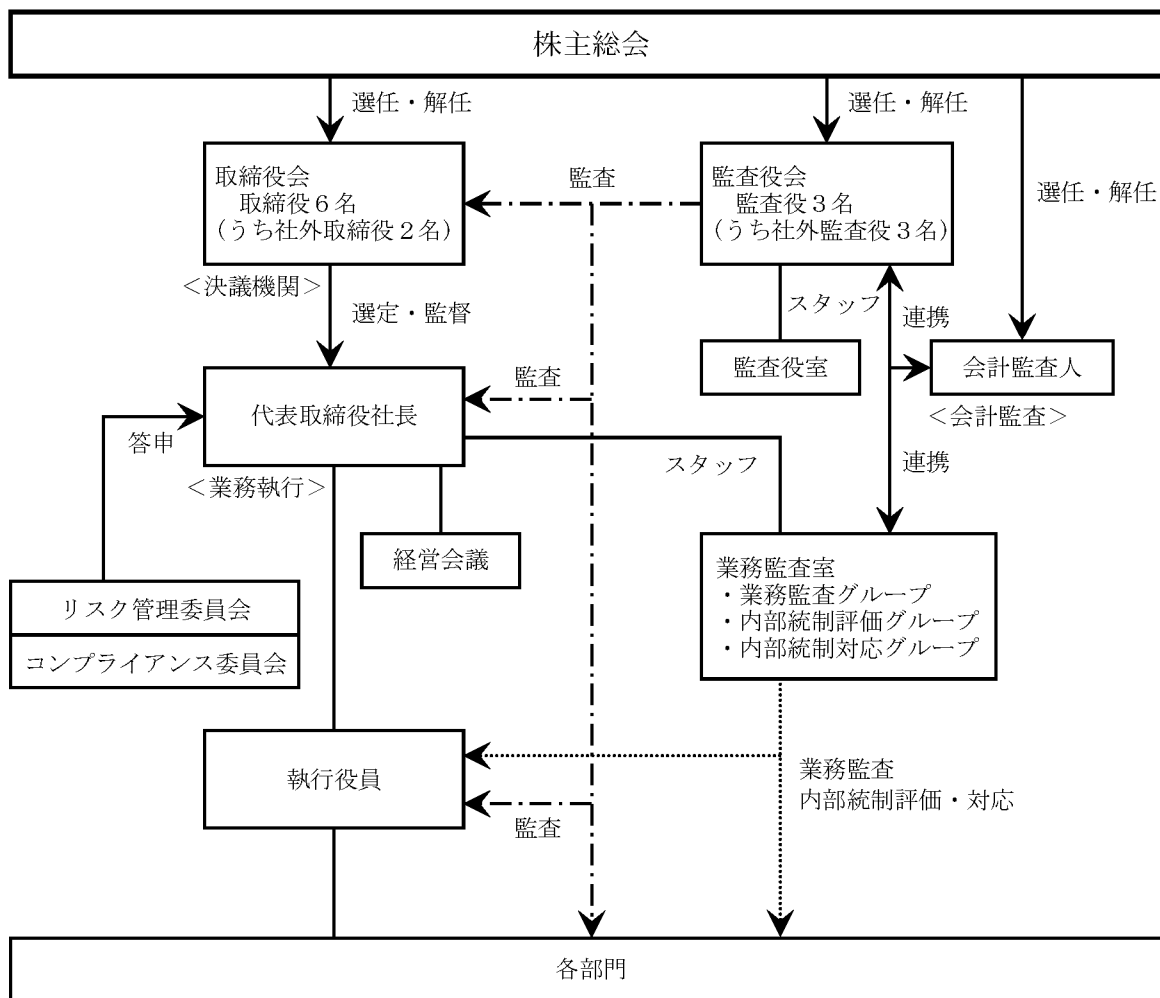
当社は、公正で透明性の高い経営と、変化の激しい経営環境のなかで迅速な経営判断と業務執行が行える体制にし、かつ内部牽制を有効に機能させることにより、持続的成長と企業価値の向上を図り、株主をはじめとする各ステークホルダーに対する責任を果たしていくことを、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方としております。

① 企業統治の体制

a 企業統治の体制の概要

当社の企業統治の体制は、監査役会設置会社として、独立性のある社外取締役を複数選任して取締役会の監督機能の強化を図るとともに、監査役と業務監査室との連携により監査機能の強化を図る体制としております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は、次のとおりであります。



b 企業統治の体制を採用する理由

当社は、当該体制における監督・監査機能及び業務執行機能は、当社に適しており有効に機能すると考えるため、これを採用しております。

(1) 監督機能（取締役、社外取締役、取締役会）

提出日現在において、取締役は6名であり、うち2名が社外取締役であります。

社外取締役2名は、いずれも(株)東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しており、その経験、知識及び見識から経営全般について提言をいただき、取締役会の監督機能の強化を図っております。

取締役会は、毎月開催されており、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督を行っております。

(2) 業務執行機能（執行役員、経営会議）

当社は、経営の意思決定及び業務執行の監督機能と業務執行機能の分担を明確化することにより、経営機能と業務執行機能の双方を強化することを目的として執行役員制度を導入しております。

提出日現在において、執行役員は8名であり、うち取締役兼務者は4名であります。

当社は、取締役兼務執行役員及び常勤監査役をメンバーとする経営活動の諸施策の適切な実行を討議する経営会議を、毎月原則1～2回開催しております。

(3) 監査機能（監査役、社外監査役、監査役会、業務監査室）

提出日現在において、監査役は3名であり、3名は全員社外監査役であります。

監査役会は、毎月開催されており、監査役は、監査役会が策定した監査方針に従い、取締役会をはじめとする重要な会議への出席や重要な文書の閲覧等を通じて、取締役及び執行役員の職務執行を監査しております。また、業務監査室は、内部監査を実施し、その結果を監査役にも報告しております。

c 内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況

当社は、次のとおり内部統制システム構築に関する基本方針を定めております。

「内部統制システム構築に関する基本方針」

(1) 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、コンプライアンス規程として「企業活動に関する基本指針」並びに「行動基準」を定め、取締役社長を法令遵守担当役員とし、その下でコンプライアンス委員会が法令・企業倫理の遵守に関する職務を担当するほか、相談・通報体制として法務室のほかに外部弁護士をも相談・通報先とする内部通報制度であるホットラインを設置しています。コンプライアンスの推進については、役員以下がコンプライアンス規程に則り業務運営に当たるよう、研修等を行っています。また、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然とした態度で対応するとともに、社内体制を整備し関係遮断を行います。そのほか、内部監査を所管する業務監査室が、法令及び会社諸規程に従い業務が遂行されるよう監視し、代表取締役より改善指導する体制を設置しています。

(2) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書保存処分規程に基づき、適正な保存及び管理を行います。

(3) 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスクの管理については、基本規程としてリスク管理基本規程を定めるとともに関連規程の整備とその運用を図り、リスクの低減に努めるとともに、経営管理室を事務局とするリスク管理委員会がリスク管理活動を実施し、リスク発生時の連絡や対応体制の整備を進めます。

(4) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、定例の取締役会を毎月1回開催し、重要事項の決定並びに取締役の業務執行の監督等を行います。取締役会のほか、経営活動の諸施策の適切な実行を討議するための経営会議を毎月原則1～2回開催します。

(5) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

① 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社グループでは、関係会社管理に関する規程として、関係会社業務取扱規程を定め、相互に密接な連携のもとにグループ運営を行います。関係会社業務取扱規程は、当社承認事項、当社との協議事項、当社への報告事項を定め、当社各担当部門を経由して子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の承認・協議・報告を行うこととしています。また、当社は毎月1回業績検討会議を開催し、当社各担当部門より子会社の毎月の事業概況を報告します。

② 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

子会社のリスクの管理については、当社リスク管理委員会がリスク管理活動の指導を行うとともに当社各担当部門と協力し、子会社の発生リスクの把握及び対応を行います。また、リスク管理委員会は定期的にグループ全体でのリスク事項を洗い出し、対応体制の整備を進めます。

③ 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、毎年1回グループ全体の予算会議を開催し、各事業年度の重点経営目標及び予算並びに3事業年度を期間とする中期経営プランを策定します。また、当社は、関係会社業務取扱規程に従い業務が遂行されるよう、子会社に取締役会その他の重要な意思決定を行う体制を構築させます。

④ 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社コンプライアンス委員会は、グループでのコンプライアンス活動を推進し、当社コンプライアンス規程に準じた子会社規程の整備、相談・通報制度であるホットライン・意見箱等の設置や研修等の支援を行うとともに、半期毎に子会社からその活動状況を聴取し取締役会に報告します。また、業務監査室は、子会社の業務執行が法令、子会社定款及び諸規程に従い遂行されるよう内部監査を通じて監視するとともに改善指導を行います。

⑤ その他の当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、「財務報告に係る内部統制基本方針」を定め、財務報告に係る内部統制の体制が適正に機能することを継続的に評価し、必要な是正を行い、当社グループの財務報告の信頼性を確保します。

(6) 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社は、監査役職務を補助する組織として監査役室を設置しています。

(7) 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する事項

監査役室の所属員の人事に関しては、事前に監査役会の同意を得るものとします。

監査役が監査役室の所属員に指示をした業務については、所属員は取締役の指揮系統に属さないものとします。

監査役は、監査役室の所属員及び所属する兼任部門の業務内容について毎月又は適宜に聴取・提言し、必要に応じ監査を行ううえでの重要な事項について、指示管理を行います。

(8) 当社の監査役への報告に関する体制

① 当社の取締役及び使用人が監査役に報告するための体制

取締役及び使用人は、法令・定款違反や不正行為、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを知った場合は、監査役に報告することとします。

監査役は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、取締役会、経営会議その他重要な会議に出席するとともに、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、取締役又は使用人にその説明を求めることができます。

② 子会社の取締役、監査役、業務を執行する社員及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告するための体制

監査役は主要な子会社の監査役を兼務しており、法令・定款違反や不正行為、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実、子会社の取締役及び使用人から報告を受けます。また、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、取締役会やその他の重要な会議に出席し必要に応じ取締役等に説明を求めることができます。また、その他の子会社を含め、関係会社業務取扱規程に定める承認・協議・報告事項に関する文書・資料等を閲覧し、当社各担当部門あるいは必要に応じ子会社に直接説明を求めることができます。

③ その他の当社の監査役への報告に関する体制

法務室は、コンプライアンス委員会において、監査役に対しても当社及び子会社の内部通報制度の利用状況を報告します。

業務監査室は、当社及び子会社の内部監査の状況を監査役に対しても報告します。

(9) 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社は、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けた場合には、相談・通報できるホットラインを設置しており、相談・通報をしたことについて不利な取扱いはいはしないことを定めています。

当社は、子会社に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないように周知徹底します。

(10) 当社の監査役職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役職務の執行について生ずる費用の処理については毎年予算化し、監査役の請求により総務部においてその処理を行います。

(11) その他当社の監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役と監査役は、定期的に情報を交換するための会合を行います。

d 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役近藤基、小竹延和の両氏及び監査役熊澤信介、赤木裕、早田一人の3氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。

② 内部監査及び監査役監査

監査役は、監査役会が策定した監査方針に従って、取締役会その他重要な会議に出席し、積極的な発言を行うとともに、重要な書類の閲覧、各部門及び子会社調査等を行い、監査役会に報告しております。また、監査役は、期初に会計監査人から年間監査計画の説明を受け、期中には適宜状況を聴取し、期末に監査結果の報告を受けております。加えて、監査役は、内部監査部門である業務監査室の監査の結果について報告を受け、必要に応じて情報交換を行っております。これらの監査の結果を基に監査役会の監査報告書を作成して取締役に提出しております。なお、監査役熊澤信介氏は、金融機関における長年の経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査役のスタッフ部門として3名（兼務者）の所属員からなる監査役室が設置されており、監査役を補佐し、内部牽制の状況をチェックしております。このほか、業務監査室（兼務を含め16名）の中の業務監査グループが、年間の監査計画に基づく内部監査を実施し、その結果を取締役及び監査役に報告しております。また、業務監査室業務監査グループは、要請により当社のグループ会社に対しても業務監査を通じて業務遂行に問題が生じないように指導しております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社は、社外取締役2名及び社外監査役3名を選任しております。当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準を定めております。なお、当社は、当社の独立性判断基準及び㈱東京証券取引所が定める独立性の基準に抵触しないため、社外取締役近藤基、小竹延和の両氏を、㈱東京証券取引所に独立役員として届け出ております。当社においては、独立役員の資格を充たす社外役員は近藤基、小竹延和の両氏であります。

社外取締役近藤基氏は、弁護士であり弁護士法人小野総合法律事務所の代表社員であります。当社から同氏及び同事務所に対して役員報酬以外の支払いはありません。また、当社と同事務所との間には特別の関係はありません。同氏は、弁護士としての豊富な経験と専門知識を活かして、独立した立場で経営の監督機能を発揮していただいているため、社外取締役に選任しております。当社と同氏との間には特別の利害関係はありません。

社外取締役小竹延和氏は、㈱小松製作所の技術部門出身で常務執行役員を務め、また海外経験もあり、会社経営について豊富な経験を有しております。この経験や見識を活かし、当社の経営全般に提言をいただくことにより、当社のコーポレートガバナンスの強化が期待できるため、社外取締役に選任しております。同氏は当社の取引先ではなく、また当社と同氏との間には特別の利害関係はありません。

当社の監査役3名は全員社外監査役であります。

社外監査役熊澤信介氏は、当社のメインバンクであり、かつ当社の大株主である㈱三菱東京UFJ銀行出身であります。また、同氏以外に同行の出身者が当社の取締役に就任しております。同氏は、金融機関での長年の経験に加え、三菱UFJローンビジネス㈱の代表取締役社長や㈱ジャルカードの常勤監査役での経験や見識を活かし、監査機能を発揮していただけることが期待できるため、社外監査役に選任しております。当社と両社との間には、利害関係はありません。

社外監査役赤木裕氏は、当社の大株主である旭硝子㈱の元執行役員であります。当社と同社との間には、一部製品販売等の取引関係があります。また、同氏以外に同社の出身者が当社の取締役及び監査役に就任しております。当社は同氏を、製造会社の技術部門や事業部門での長年の経験や見識を活かして、監査機能を発揮していただいているため、社外監査役に選任しております。

社外監査役早田一人氏は、旭硝子㈱の元従業員であり、同社の子会社であるサイアム旭テクノグラス㈱、旭硝子（上海）管理諮詢有限公司及びAGC保険マネジメント㈱の董事長や代表取締役社長でありましたが、当社とこれらの会社との間には、利害関係はありません。当社は同氏を、製造会社の資材・物流部門及び管理部門での経験並びに同社子会社での会社経営の経験や見識を活かして、監査機能を発揮していただいているため、社外監査役に選任しております。

当社と監査役3名との間には特別の利害関係はありません。

「社外役員の独立性判断基準」

日本カーバイド工業株式会社（以下「当社」という）は、当社における社外役員（社外取締役及び社外監査役をいい、その候補者を含む）の独立性基準を次のとおり定め、社外役員が次の項目のいずれかに該当する場合は、当社にとって十分な独立性を有していないものとみなします。

1. 現在又は過去において当社及び子会社（以下「当社グループ」という）の業務執行者（加えて、社外監査役においては、業務執行者でない取締役又は会計参与（会計参与が法人である場合は、その職務を行うべき社員を含む））
2. 当社の親会社の業務執行者又は業務執行者でない取締役（加えて、社外監査役においては、親会社の監査役）
3. 当社の兄弟会社の業務執行者

4. 当社の主要株主（議決権の10%以上を有する）又はその業務執行者
 5. 当社グループを主要な取引先とする者（*1）又はその業務執行者
 6. 当社グループの主要な取引先（*2）又はその業務執行者
 7. 当社グループから、当社の直近3事業年度のいずれかの事業年度において、役員報酬以外に多額（*3）の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家又は法律専門家（当該財産を得ている者が法人、組合等の団体である場合は、その団体に所属する者）
 8. 当社グループの業務執行者が社外役員を兼務している会社の業務執行者
 9. 当社グループから、当社の直近3事業年度のいずれかの事業年度において、多額（*3）の寄付を受けている者（当該寄付を受けている者が法人、組合等の団体である場合は、当該団体に所属する者）
 10. 過去3年間に於いて上記2から9までのいずれかに該当していた者
 11. 現在又は過去3年間に於いて上記1から7までのいずれかに該当する者（重要な者（*4）に限る）の配偶者又は二親等内の親族
- *1 当社グループを主要な取引先とする者とは、当社グループへの売上高が、その者の直近事業年度における年間連結売上高の2%以上の者をいう。
- *2 当社グループの主要な取引先とは、次の者をいう。
- (1) その者への当社グループの売上高が、当社の直近事業年度における年間連結売上高の2%以上の者。
 - (2) 当社の直近事業年度末における連結総資産の2%以上を当社グループに融資している者で、かつ当社グループが資金調達において必要不可欠であり代替性がない程度に依存している者。
- *3 多額とは、年間1,000万円以上をいう。
- *4 重要な者とは役員・部長クラスの者、公認会計士、弁護士をいう。

④ 会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツを会計監査人に選任しており、会計監査を受けております。会計監査業務を執行する公認会計士は、平野洋、郷右近隆也の両氏であります。なお、継続監査年数については7年を超える者がいないため、記載を省略しております。また、監査業務に係る補助者は、有限責任監査法人トーマツに勤務する公認会計士等により構成されております。

⑤ 役員の報酬等

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる役員 の員数 (名)
		基本報酬	業績連動報酬	退職慰労金等	
取締役 (社外取締役を除く)	140	102	38	—	7
社外役員	46	46	—	—	5

(注) 1 上記には、平成27年6月26日開催の第116回定時株主総会の終結の時をもって退任した社外監査役1名を含んでおります。

2 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

3 役員ごとの報酬等の総額につきましては、総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

4 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社の取締役の報酬は、株主総会で決議いただいた限度額内で、個々の取締役の職務と責任をもとに、世間水準を考慮して、固定報酬（月額報酬）と業績連動報酬（賞与）により構成され、業績連動報酬は単年度の業績評価により変動します。ただし、社外取締役には業績連動報酬は支給しません。

取締役の報酬は、取締役会の決議により定められた基準により、固定報酬及び業績連動報酬の年額を定め、業績連動報酬については単年度の業績評価により支給率を算出し、各取締役の業績貢献度等を勘案して取締役社長が支給額を決定します。

監査役の報酬については、株主総会の決議によって決定した報酬総額の限度額内において、個々の監査役の職務と責任をもとに、監査役の協議により決定しております。

- ・ 取締役の報酬額は、平成28年6月29日開催の第117回定時株主総会において年額240百万円以内（うち社外取締役分は年額30百万円以内）と決議されております。なお、取締役の報酬額には使用人兼務取締役の使用人分給与は含まないと決議されております。

- ・ 監査役の報酬額は、平成25年6月27日開催の第114回定時株主総会において年額84百万円以内と決議されております。

⑥ 株式の保有状況

a 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 42銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 1,351百万円

b 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度（平成27年3月31日）

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
電気化学工業㈱	900,000	426	取引先企業との関係強化
㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ	431,700	321	〃
東海カーボン㈱	825,000	278	〃
リンテック㈱	21,000	60	〃
東京海上ホールディングス㈱	11,025	50	〃
藤森工業㈱	12,090	43	〃
㈱ほくほくフィナンシャルグループ	160,000	42	〃
北陸電気工業㈱	119,872	23	〃
㈱富山銀行	25,000	6	〃
㈱サンエー化研	3,000	1	〃

（注） 投資株式の貸借対照表計上額が資本金額の100分の1を超えるものが30銘柄に満たないため、対象となる全ての銘柄を記載しております。

当事業年度（平成28年3月31日）

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
デンカ㈱	900,000	416	取引先企業との関係強化
㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ	431,700	225	〃
東海カーボン㈱	825,000	220	〃
富山第一銀行㈱	90,875	42	〃
リンテック㈱	21,000	42	〃
東京海上ホールディングス㈱	11,025	41	〃
藤森工業㈱	12,307	32	〃
㈱ほくほくフィナンシャルグループ	160,000	23	〃
北陸電気工業㈱	129,590	17	〃
㈱富山銀行	2,500	8	〃
㈱サンエー化研	3,000	1	〃

（注） 1 投資株式の貸借対照表計上額が資本金額の100分の1を超えるものが30銘柄に満たないため、対象となる全ての銘柄を記載しております。

2 デンカ㈱は、平成27年10月1日に電気化学工業㈱が商号変更したものであります。

3 ㈱富山銀行は、平成27年10月1日に株式を10株につき1株の割合で併合しております。

⑦ 取締役の定数

当社の取締役は、3名以上とする旨を定款で定めております。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

⑨ 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、中間配当をすることができる旨を定款で定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能とすることを目的とするものであります。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を可能とすることを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	58	—	56	—
連結子会社	—	—	—	—
計	58	—	56	—

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているDeloitte Touche Tohmatsu LTD.に対して、当社の連結子会社であるTHAI DECAL CO.,LTD.他3社は、監査証明業務に係る報酬及び非監査業務に係る報酬として、4百万円を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているDeloitte Touche Tohmatsu LTD.に対して、当社の連結子会社であるTHAI DECAL CO.,LTD.他2社は、監査証明業務に係る報酬として、3百万円を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

前連結会計年度及び当連結会計年度いずれも該当事項はありませんが、監査公認会計士等の報酬等については、代表取締役が監査役会の同意を得て定めております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表の作成方法について

当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づき作成しております。

2 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づき作成しております。

また、当社は特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

3 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）及び事業年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

なお、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

4 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するために、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構の行う研修へ参加するなど、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,384	5,739
受取手形及び売掛金	16,993	14,437
商品及び製品	4,719	4,742
仕掛品	1,923	1,607
原材料及び貯蔵品	1,978	1,754
繰延税金資産	245	146
その他	627	986
貸倒引当金	△162	△138
流動資産合計	30,709	29,275
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,992	18,618
減価償却累計額	△12,334	△12,616
建物及び構築物（純額）	5,658	6,002
機械装置及び運搬具	33,431	33,155
減価償却累計額	△26,643	△27,022
機械装置及び運搬具（純額）	6,787	6,133
工具、器具及び備品	5,309	5,385
減価償却累計額	△4,393	△4,546
工具、器具及び備品（純額）	915	838
土地	※3 12,540	※3 12,291
リース資産	1,589	1,618
減価償却累計額	△743	△814
リース資産（純額）	846	803
建設仮勘定	712	930
有形固定資産合計	※2 27,460	※2 27,000
無形固定資産	610	572
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 2,345	※1 1,667
長期貸付金	22	19
繰延税金資産	435	410
退職給付に係る資産	18	24
その他	666	558
貸倒引当金	△224	△138
投資その他の資産合計	3,264	2,542
固定資産合計	31,335	30,114
資産合計	62,045	59,389

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,327	8,423
短期借入金	※2,※4 13,549	※2,※4 12,150
未払法人税等	77	296
賞与引当金	510	508
役員賞与引当金	—	30
設備関係支払手形	285	494
その他	2,529	2,469
流動負債合計	27,278	24,374
固定負債		
長期借入金	※2 6,490	※2 7,339
リース債務	733	731
退職給付に係る負債	3,069	3,358
役員退職慰労引当金	65	85
再評価に係る繰延税金負債	※3 2,979	※3 2,831
その他	276	219
固定負債合計	13,616	14,566
負債合計	40,894	38,940
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,034	7,034
資本剰余金	2,404	2,404
利益剰余金	1,878	2,702
自己株式	△10	△10
株主資本合計	11,306	12,129
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	215	△31
繰延ヘッジ損益	4	△3
土地再評価差額金	※3 6,151	※3 6,300
為替換算調整勘定	2,536	1,445
退職給付に係る調整累計額	△70	△389
その他の包括利益累計額合計	8,837	7,321
非支配株主持分	1,006	998
純資産合計	21,150	20,449
負債純資産合計	62,045	59,389

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高	56,765	50,182
売上原価	※1,※3 43,594	※1,※3 37,076
売上総利益	13,171	13,106
販売費及び一般管理費	※2,※3 11,653	※2,※3 11,004
営業利益	1,517	2,101
営業外収益		
受取利息	89	86
受取配当金	105	116
受取賃貸料	68	68
受取保険金	6	72
持分法による投資利益	—	0
為替差益	198	40
その他	187	186
営業外収益合計	655	572
営業外費用		
支払利息	265	196
手形売却損	4	3
持分法による投資損失	30	—
休止設備固定費	74	47
賃貸収入原価	40	44
売電費用	30	42
その他	86	84
営業外費用合計	532	419
経常利益	1,640	2,255
特別利益		
投資有価証券等売却益	35	—
特別利益合計	35	—
特別損失		
固定資産除却損	※4 186	—
減損損失	※5 1,571	※5 361
特別退職金	—	46
特別損失合計	1,758	407
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△82	1,847
法人税、住民税及び事業税	635	542
法人税等調整額	889	155
法人税等合計	1,525	698
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,607	1,149
非支配株主に帰属する当期純利益	208	144
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△1,815	1,004

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当期純利益又は当期純損失(△)	<u>△1,607</u>	<u>1,149</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	208	△255
繰延ヘッジ損益	11	△7
土地再評価差額金	306	148
為替換算調整勘定	<u>1,713</u>	<u>△1,149</u>
退職給付に係る調整額	225	△315
持分法適用会社に対する持分相当額	3	—
その他の包括利益合計	<u>※6 2,467</u>	<u>※6 △1,579</u>
包括利益	<u>860</u>	<u>△429</u>
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	<u>603</u>	<u>△505</u>
非支配株主に係る包括利益	257	75

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	7,034	2,404	2,954	△10	12,382
会計方針の変更による累積的影響額			65		65
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,034	2,404	3,019	△10	12,447
当期変動額					
剰余金の配当			△163		△163
親会社株主に帰属する当期純損失（△）			△1,815		△1,815
連結範囲の変動					-
土地再評価差額金の取崩			838		838
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	△1,141	△0	△1,141
当期末残高	7,034	2,404	1,878	△10	11,306

	その他の包括利益累計額						非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	△5	△7	6,683	906	△320	7,257	863	20,503
会計方針の変更による累積的影響額								65
会計方針の変更を反映した当期首残高	△5	△7	6,683	906	△320	7,257	863	20,568
当期変動額								
剰余金の配当								△163
親会社株主に帰属する当期純損失（△）								△1,815
連結範囲の変動								-
土地再評価差額金の取崩								838
自己株式の取得								△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	220	11	△532	1,630	250	1,580	142	1,723
当期変動額合計	220	11	△532	1,630	250	1,580	142	581
当期末残高	215	4	6,151	2,536	△70	8,837	1,006	21,150

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	7,034	2,404	<u>1,878</u>	△10	<u>11,306</u>
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,034	2,404	<u>1,878</u>	△10	<u>11,306</u>
当期変動額					
剰余金の配当			△163		△163
親会社株主に帰属する当期純利益			<u>1,004</u>		<u>1,004</u>
連結範囲の変動			<u>△17</u>		<u>△17</u>
土地再評価差額金の取崩					—
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	—	<u>823</u>	△0	<u>823</u>
当期末残高	7,034	2,404	<u>2,702</u>	△10	<u>12,129</u>

	その他の包括利益累計額						非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	215	4	6,151	<u>2,536</u>	△70	<u>8,837</u>	1,006	<u>21,150</u>
会計方針の変更による累積的影響額								—
会計方針の変更を反映した当期首残高	215	4	6,151	<u>2,536</u>	△70	<u>8,837</u>	1,006	<u>21,150</u>
当期変動額								
剰余金の配当								△163
親会社株主に帰属する当期純利益								<u>1,004</u>
連結範囲の変動								<u>△17</u>
土地再評価差額金の取崩								—
自己株式の取得								△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△247	△7	148	<u>△1,090</u>	△319	<u>△1,515</u>	△8	<u>△1,524</u>
当期変動額合計	△247	△7	148	<u>△1,090</u>	△319	<u>△1,515</u>	△8	<u>△700</u>
当期末残高	△31	△3	6,300	<u>1,445</u>	△389	<u>7,321</u>	998	<u>20,449</u>

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失 (△)	△82	1,847
減価償却費	2,738	2,459
減損損失	1,571	361
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	149	5
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△43	20
賞与引当金の増減額 (△は減少)	9	0
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	30
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	△101
受取利息及び受取配当金	△194	△203
支払利息	265	196
為替差損益 (△は益)	64	21
持分法による投資損益 (△は益)	30	△0
特別退職金	—	46
固定資産除却損	186	—
投資有価証券等売却損益 (△は益)	△35	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△619	2,078
たな卸資産の増減額 (△は増加)	150	228
仕入債務の増減額 (△は減少)	△416	△1,659
その他	△655	△243
小計	3,117	5,088
利息及び配当金の受取額	194	203
利息の支払額	△226	△201
特別退職金の支払額	—	△46
法人税等の支払額	△906	△311
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,179	4,732
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,780	△2,369
定期預金の払戻による収入	1,760	1,863
有形固定資産の取得による支出	△2,516	△2,534
有形固定資産の売却による収入	17	47
投資有価証券等の取得による支出	△396	△7
投資有価証券等の売却による収入	406	0
貸付けによる支出	△24	△6
貸付金の回収による収入	18	5
その他	△113	△21
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,629	△3,024
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,137	△1,132
長期借入れによる収入	3,896	4,400
長期借入金の返済による支出	△3,775	△3,809
配当金の支払額	△163	△163
セール・アンド・リースバックによる収入	—	119
リース債務の返済による支出	△115	△128
その他	△90	△96
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,385	△811
現金及び現金同等物に係る換算差額	307	△215
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,528	681
現金及び現金同等物の期首残高	4,325	2,797
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	247
現金及び現金同等物の期末残高	2,797	3,727

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 19社

連結子会社は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

なお、前連結会計年度において非連結子会社であったNIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA.については、重要性が増したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

また、恩希愛（杭州）薄膜有限公司は、恩希愛（杭州）化工有限公司が商号変更したものであります。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社は、USK-Human(株)であります。

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社4社の合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも軽微であり、かつ全体としても連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないので、非連結子会社としております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社は、非連結子会社4社及び関連会社2社のうち、非連結子会社USK-Human(株)の1社であります。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社早月アスコ(株)他2社及び関連会社早月生コン(株)他1社は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としてもその影響の重要性がないため、これらの会社に対する投資については、持分法を適用せず原価法により評価しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結決算日と決算日の異なる連結子会社の決算日は以下のとおりであります。連結財務諸表作成に当たっては、決算日の差異が3ヶ月以内であるため各連結子会社の事業年度の財務諸表に基づき連結し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

	(決算日)
エヌシーアイ電子(株)	(12月31日)
恩希愛（杭州）薄膜有限公司	(12月31日)
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (USA) INC.	(12月31日)
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (South Carolina) INC.	(12月31日)
PT ALVINY INDONESIA	(12月31日)
ELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO., LTD.	(12月31日)
NCI HOLDING (THAILAND) CO., LTD.	(12月31日)
THAI DECAL CO., LTD.	(12月31日)
NCI (VIETNAM) CO., LTD.	(12月31日)
<u>NIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA.</u>	<u>(12月31日)</u>
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (NETHERLANDS) B. V.	(12月31日)
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES (EUROPE) GmbH	(12月31日)
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES FRANCE S. A. S.	(12月31日)
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES ESPAÑA S. A.	(12月31日)
ビニフレイム工業(株)	(1月31日)
(株)三和ケミカル	(1月31日)
(株)北陸セラミック	(1月31日)
ダイヤモンドエンジニアリング(株)	(1月31日)

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

1 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブ取引により生ずる債権及び債務

時価法

3 たな卸資産

主として月次移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

1 有形固定資産（リース資産を除く）

主として機械装置は定額法、その他の有形固定資産は定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。

2 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間に基づく定額法によっております。

また、土地使用権については、土地使用契約期間に基づき每期均等償却しております。

3 リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、主としてリース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

1 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

2 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

3 役員賞与引当金

役員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

4 役員退職慰労引当金

一部の連結子会社は役員の退職慰労金の支給に備えるため、各社における内部規程に則って期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、退職給付見込額の期間帰属方法は給付算定式基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として12年）による定額法により発生年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として12年）による定額法により発生年度の翌年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整のうえ、純資産の部における退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高の計上基準

工事契約については、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算、収益及び費用についても決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

ヘッジ手段……金利スワップ、為替予約

ヘッジ対象……借入金、外貨建予定取引

ヘッジ方針

借入債務の金利変動リスク及び外貨建予定取引の為替変動リスクを回避することを目的としてヘッジを行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ取引担当部署が、半年ごとにヘッジ対象の相場変動とヘッジ手段の相場変動との比較に基づき評価を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成25年9月13日 企業会計基準第21号）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成25年9月13日 企業会計基準第22号）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成25年9月13日 企業会計基準第7号）等を当連結会計年度より適用し、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替を行っております。

「企業結合に関する会計基準」等の適用については、「企業結合に関する会計基準」第58-2項(4)、「連結財務諸表に関する会計基準」第44-5項(4)及び「事業分離等に関する会計基準」第57-4項(4)に定める経過的な取り扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当連結会計年度の損益に与える影響はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）

1 概要

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する会計上の実務指針及び監査上の実務指針（会計処理に関する部分）を企業会計基準委員会に移管するに際して、企業会計基準委員会が、当該実務指針のうち主に日本公認会計士協会監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」において定められている繰延税金資産の回収可能性に関する指針について、企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積るという取扱いの枠組みを基本的に踏襲したうえで、分類の要件及び繰延税金資産の計上額の取扱いの一部について必要な見直しを行ったもので、繰延税金資産の回収可能性について、「税効果会計に係る会計基準」（企業会計審議会）を適用する際の指針を定めたものであります。

2 適用予定日

平成28年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用いたします。

3 当該会計基準等の適用による影響

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現在評価中であります。

(表示方法の変更)

連結損益計算書

前連結会計年度において、営業外収益の「その他」に含めておりました「受取保険金」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より区分掲記しております。

また、営業外費用の「その他」に含めておりました「賃貸収入原価」及び「売電費用」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より区分掲記しております。

これらの表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度において、営業外収益の「その他」に表示しておりました193百万円は、「受取保険金」6百万円及び「その他」187百万円として、営業外費用の「その他」に表示しておりました157百万円は、「賃貸収入原価」40百万円、「売電費用」30百万円及び「その他」86百万円として組替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 ※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
投資有価証券(株式)	485百万円	94百万円

2 ※2 このうち、借入金の担保に供されている資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
(担保に供されている資産)		
建物及び構築物	1,329百万円	1,283百万円
機械装置及び運搬具	1,034 "	939 "
土地	9,574 "	9,417 "
計	11,938 "	11,639 "
(担保を付している債務)		
短期借入金	702百万円	703百万円
長期借入金(1年内返済予定を含む)	3,742 "	3,426 "
(上記のうち工場財団抵当として担保に供されている資産)		
建物及び構築物	772百万円	739百万円
機械装置及び運搬具	1,034 "	939 "
土地	8,641 "	8,641 "
計	10,448 "	10,320 "

3 ※3 事業用土地の再評価

当社は、「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成13年3月31日改正法律第19号）に基づき、事業用土地の再評価を行い、当該再評価差額に係る税金相当額を、「再評価に係る繰延税金負債」として固定負債に、これを控除した残額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と 再評価後の帳簿価額との差額 (時価が帳簿価額を下回る金額)	4,363百万円	4,367百万円

4 ※4 コミットメントライン契約

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
コミットメントライン契約の総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行残高	— 〃	— 〃
借入未実行残高	3,000 〃	3,000 〃

5 保証債務

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
(保証債務) 鑽石(大連)機電技術有限公司 (契約履行保証)	0百万円	1百万円

6 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
受取手形割引高	440百万円	280百万円

(連結損益計算書関係)

1 ※1 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額 (△は戻入額)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上原価	<u>△84</u> 百万円	46百万円

2 ※2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
支払運賃	<u>1,454</u> 百万円	<u>1,366</u> 百万円
給料手当	<u>3,006</u> "	<u>2,921</u> "
研究開発費	<u>2,004</u> "	<u>1,901</u> "
賞与引当金繰入額	188 "	194 "
役員賞与引当金繰入額	— "	30 "
退職給付費用	236 "	134 "
役員退職慰労引当金繰入額	28 "	20 "
貸倒引当金繰入額	32 "	44 "

3 ※3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
一般管理費及び当期製造費用に含まれる 研究開発費	<u>2,136</u> 百万円	<u>2,027</u> 百万円

4 固定資産除却損の主な内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
※4 固定資産除却損		
建物及び構築物	77百万円	—百万円
機械装置及び運搬具	74 "	— "

5 ※5 減損損失

当社グループは、原則として事業用資産については事業部、遊休資産については個別物件ごとに資産のグループ化を行っており、収益性や評価額が著しく低下した以下の資産グループについて帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
全社（共通）	富山県魚津市	土地	1,297
電子・光学製品	福島県須賀川市等	建物	92
		土地	179
遊休	富山県富山市等	土地	1
計			1,571

全社（共通）については、当社の工場用地について、時価の下落並びに当該土地の使用状況に鑑み、減損損失を計上しております。

なお、回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、主として路線価を合理的に調整した価格等に基づき評価しております。

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
電子・光学製品	富山県魚津市	土地	155
		建物及び構築物	77
	富山県滑川市等	機械装置及び運搬具	107
		その他	15
遊休	富山県富山市等	土地	5
計			361

電子・光学製品については、連結子会社の工場用地の時価下落等により、減損損失を計上しております。なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローの見積金額を1.3%で割り引いて算定しております。

また、遊休資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、主として路線価を合理的に調整した価格等に基づき評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※6 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	271百万円	△293百万円
組替調整額	△32 "	－ "
税効果調整前	238 "	△293 "
税効果額	△30 "	38 "
その他有価証券評価差額金	208 "	△255 "
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	10 "	△16 "
組替調整額	4 "	2 "
税効果調整前	14 "	△13 "
税効果額	△2 "	5 "
繰延ヘッジ損益	11 "	△7 "
土地再評価差額金		
税効果額	306 "	148 "
土地再評価差額金	306 "	148 "
為替換算調整勘定		
当期発生額	1,713 "	△1,149 "
税効果調整前	1,713 "	△1,149 "
為替換算調整勘定	1,713 "	△1,149 "
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△14 "	△326 "
組替調整額	222 "	15 "
税効果調整前	207 "	△311 "
税効果額	17 "	△4 "
退職給付に係る調整額	225 "	△315 "
持分法適用会社に対する持分相当額		
組替調整額	4 "	－ "
税効果調整前	4 "	－ "
税効果額	△1 "	－ "
持分法適用会社に対する持分相当額	3 "	－ "
その他の包括利益合計	2,467 "	△1,579 "

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	81,940,298	—	—	81,940,298

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	57,784	1,146	—	58,930

(注) 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

平成26年6月27日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

- ① 配当金の総額 163百万円
- ② 1株当たり配当額 2円
- ③ 基準日 平成26年3月31日
- ④ 効力発生日 平成26年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成27年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

- ① 配当金の総額 163百万円
- ② 1株当たり配当額 2円
- ③ 配当の原資 利益剰余金
- ④ 基準日 平成27年3月31日
- ⑤ 効力発生日 平成27年6月29日

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	81,940,298	—	—	81,940,298

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	58,930	2,200	—	61,130

（注） 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

平成27年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

- ① 配当金の総額 163百万円
- ② 1株当たり配当額 2円
- ③ 基準日 平成27年3月31日
- ④ 効力発生日 平成27年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成28年6月29日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

- ① 配当金の総額 163百万円
- ② 1株当たり配当額 2円
- ③ 配当の原資 利益剰余金
- ④ 基準日 平成28年3月31日
- ⑤ 効力発生日 平成28年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目との関係

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
現金及び預金勘定	4,384百万円	5,739百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△1,586 "	△2,012 "
現金及び現金同等物	2,797 "	3,727 "

(リース取引関係)

1 所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として太陽光発電設備であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項4 (2) 3」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
1年以内	75百万円	67百万円
1年超	59 "	74 "
合計	135 "	141 "

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、主として銀行等金融機関からの借入れにより資金を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理の規程に沿ってリスク低減を図っております。また、一部の外貨建売上債権、外貨建仕入債務等については、為替の変動リスクに対して先物為替予約を実施しております。

投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を行っております。また、一部の外貨建長期借入金の為替変動リスクに対して通貨スワップ取引を実施しております。

ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 (7)」に記載のとおりであります。

なお、デリバティブ取引については、当社グループ各社は、各社の取締役会の承認を得たデリバティブ取引に関する内部規程を設けており、取引の実行及び管理等については、グループ各社において当該規程に則って行われ、各社の取締役会に対して定期的に取り残高、時価及び有効性の評価等が報告されております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「注記事項 デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結決算日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。前連結会計年度（平成27年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)	時価の算定方法
現金及び預金	4,384	4,384	—	(*1)
受取手形及び売掛金	16,993	16,993	—	(*1)
投資有価証券				
その他有価証券	1,674	1,674	—	(*2)
資産計	23,052	23,052	—	
支払手形及び買掛金	10,327	10,327	—	(*1)
短期借入金	13,549	13,618	69	(*3)
未払法人税等	77	77	—	(*1)
設備関係支払手形	285	285	—	(*1)
長期借入金	6,490	6,466	△24	(*4)
負債計	30,730	30,775	44	
デリバティブ取引				
ヘッジ会計が適用されていないもの	△76	△76	—	
ヘッジ会計が適用されているもの	9	9	—	

当連結会計年度（平成28年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)	時価の算定方法
現金及び預金	5,739	5,739	—	(*1)
受取手形及び売掛金	14,437	14,437	—	(*1)
投資有価証券				
その他有価証券	1,386	1,386	—	(*2)
資産計	21,563	21,563	二	
支払手形及び買掛金	8,423	8,423	—	(*1)
短期借入金	12,150	12,206	55	(*3)
未払法人税等	296	296	—	(*1)
設備関係支払手形	494	494	—	(*1)
長期借入金	7,339	7,374	35	(*4)
負債計	28,705	28,795	90	
デリバティブ取引				
ヘッジ会計が適用されていないもの	△30	△30	—	
ヘッジ会計が適用されているもの	△3	△3	—	

(注) 1 金融商品の時価の算定方法に関する事項

(*1) 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(*2) 株式は取引所の価格によっております。

(*3) 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、短期借入金のうち1年内返済予定の長期借入金については、長期借入金と同様の算定方法によっております。

(*4) 元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

2 有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

有価証券に関する事項については「注記事項 有価証券関係」に、デリバティブ取引に関する事項については「注記事項 デリバティブ取引関係」に記載のとおりであります。

3 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
非上場株式	670百万円	281百万円

(注) 上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

4 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成27年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)
現金及び預金	4,384	—	—
受取手形及び売掛金	16,993	—	—

当連結会計年度（平成28年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)
現金及び預金	5,739	—	—
受取手形及び売掛金	14,437	—	—

5 長期借入金及びその他の有利子負債の返済予定額

前連結会計年度（平成27年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	9,783	—	—	—	—	—
長期借入金	3,766	2,973	1,976	1,122	419	—

当連結会計年度（平成28年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	8,643	—	—	—	—	—
長期借入金	3,507	2,752	2,399	1,196	607	384

(有価証券関係)

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1 その他有価証券(平成27年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	1,226	845	381
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式	447	493	△45
合計	1,674	1,338	336

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	406	35	—
その他	—	—	—
合計	406	35	—

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 その他有価証券(平成28年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	730	498	232
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式	655	845	△189
合計	1,386	1,343	42

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	—	—	—
その他	0	0	—
合計	0	0	—

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度 (平成27年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

区分	デリバティブ取引の種類等	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	通貨スワップ取引 支払インド・ルピー 受取円	240	160	△76	△76

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等によっております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)			
原則的処理方法	為替予約取引 買建	外貨建予定取引	138	-	7			
	米・ドル							
	人民元					42	-	2
	韓国・ウォン					227	56	4
合計			409	56	14			

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等によっております。

金利関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	536	426	△4

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等によっております。

当連結会計年度（平成28年3月31日）

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
通貨関連

区分	デリバティブ取引の種類等	契約額等 (百万円)	契約額等 のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	通貨スワップ取引 支払インド・ルピー 受取円	160	80	△24	△24
市場取引以外の 取引	為替予約取引 売建 米・ドル	233	—	△6	△6
	合計	393	80	△30	△30

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等によっております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
通貨関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等 のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米・ドル 人民元 韓国・ウォン	外貨建予定取引	46 65 56	— — —	△0 △4 3
	合計		168	—	△2

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等によっております。

金利関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等 のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	224	70	△1

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等によっております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付制度として、確定給付企業年金制度又は退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。なお、一部の国内連結子会社は、中小企業退職金共済制度を設けており、一部の在外連結子会社は、確定給付制度又は確定拠出制度を設けております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表 (簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,935百万円	4,134百万円
会計方針の変更による累積的影響額	△142 "	— "
会計方針の変更を反映した期首残高	3,793 "	4,134 "
勤務費用	281 "	259 "
利息費用	55 "	51 "
数理計算上の差異の発生額	99 "	298 "
退職給付の支払額	△170 "	△320 "
その他	75 "	△32 "
退職給付債務の期末残高	4,134 "	4,391 "

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表 (簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
年金資産の期首残高	1,870百万円	2,055百万円
期待運用収益	23 "	25 "
数理計算上の差異の発生額	85 "	△28 "
事業主からの拠出額	108 "	98 "
退職給付の支払額	△62 "	△147 "
その他	29 "	— "
年金資産の期末残高	2,055 "	2,003 "

(3) 退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表 (簡便法を適用した制度)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,062百万円	970百万円
退職給付費用	114 "	132 "
退職給付の支払額	△111 "	△96 "
制度への拠出額	△62 "	△61 "
その他	△32 "	— "
退職給付に係る負債の期末残高	970 "	945 "

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	2,266百万円	2,398百万円
年金資産	△2,362 "	△2,362 "
	△96 "	36 "
非積立型制度の退職給付債務	3,146 "	3,297 "
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,050 "	3,333 "
退職給付に係る負債	3,069 "	3,358 "
退職給付に係る資産	△18 "	△24 "
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,050 "	3,333 "

(注) 簡便法を適用した制度を含めております。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
勤務費用	281百万円	259百万円
利息費用	55 "	51 "
期待運用収益	△23 "	△25 "
会計基準変更時差異の費用処理額	169 "	— "
数理計算上の差異の費用処理額	23 "	14 "
過去勤務費用の費用処理額	△2 "	△3 "
簡便法で計算した退職給付費用	114 "	132 "
確定給付制度に係る退職給付費用	618 "	428 "

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
会計基準変更時差異	199百万円	—百万円
数理計算上の差異	10 "	△308 "
過去勤務費用	△1 "	△2 "
合計	207 "	△311 "

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
未認識数理計算上の差異	102百万円	411百万円
未認識過去勤務費用	15 "	17 "
合計	118 "	429 "

(8) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
一般勘定	60%	62%
債券	20%	20%
株式	14%	13%
その他	6%	5%
合計	100%	100%

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
割引率	0.2%～1.1%	0.2%～0.3%
長期期待運用収益率	1.1%～1.5%	0.3%～1.5%
予想昇給率	0.8%～2.0%	0.9%～2.0%

3 確定拠出制度

一部の在外連結子会社の拠出額は、前連結会計年度11百万円、当連結会計年度10百万円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
(繰延税金資産)		
繰越欠損金	2,606百万円	2,501百万円
退職給付に係る負債	972 "	1,020 "
減損損失	753 "	826 "
未実現利益に伴う税効果	443 "	413 "
決算訂正による影響額	412 "	410 "
賞与引当金	167 "	155 "
棚卸資産評価損	123 "	106 "
投資有価証券等評価損	84 "	103 "
その他	285 "	258 "
繰延税金資産小計	5,847 "	5,796 "
評価性引当額	△4,844 "	△4,949 "
繰延税金資産合計	1,003 "	846 "
(繰延税金負債)		
在外子会社の留保利益に係る税効果	△131百万円	△145百万円
その他有価証券評価差額金	△108 "	△70 "
退職給付に係る資産	△5 "	△7 "
その他	△76 "	△67 "
繰延税金負債合計	△321 "	△290 "
繰延税金資産(又は負債)の純額	681 "	556 "

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率	—%	32.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	—%	2.0%
住民税均等割等	—%	1.3%
欠損金子会社の未認識税務利益	—%	1.9%
評価性引当額の増減	—%	△0.9%
外国税額控除	—%	3.3%
未実現利益の未認識税効果	—%	1.1%
在外子会社の留保利益に係る税効果	—%	0.9%
在外子会社に係る税率差異	—%	△15.7%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—%	△0.3%
決算訂正による影響額	—%	△0.1%
その他	—%	11.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—%	37.8%

(注) 前連結会計年度は、税金等調整前当期純損失となっておりますので、記載を省略しております。

3 法人税等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する連結会計年度より法人税率の引下げ及び事業税率の変更が行われることになりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の32.1%から平成28年4月1日に開始する連結会計年度及び平成29年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については30.7%に、平成30年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.5%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の純額は7百万円、法人税等調整額は4百万円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金は3百万円増加しております。また、再評価に係る繰延税金負債は148百万円減少し、土地再評価差額金は同額増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの事業活動は、製品・サービスごとに国内外の戦略を包括的に立案・実行する事業部等によって展開されており、当社の取締役会が、それらの事業ごとに分離された財務情報を入手し、経営資源の配分の決定や業績の評価など、定期的に検討を行っております。よって、当社グループは、それらの製品・サービスを基礎として、以下の4つを報告セグメントとしております。

- (1) 機能製品……………フラインケミカル製品、メラミン樹脂、接着製品、マーキングフィルム、ステッカー、包装用フィルム等の製造販売
- (2) 電子・光学製品………再帰反射シート、セラミック基板、厚膜印刷製品、プリント配線板等の製造販売
- (3) 建材関連……………住宅用アルミ建材等の製造販売
- (4) エンジニアリング…産業プラントの設計・施工等

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額の算定方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であり、セグメント間の内部売上高又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額	計
	機能製品	電子・光学製品	建材関連	エンジニアリング	計		
売上高							
外部顧客への売上高	24,405	15,103	10,716	5,960	56,184	580	56,765
セグメント間の内部売上高又は振替高	786	14	20	1,155	1,975	△1,975	—
計	25,191	15,117	10,736	7,116	58,160	△1,394	56,765
セグメント利益又は損失(△)	2,031	△73	423	△351	2,029	△389	1,640
その他の項目							
減価償却費	1,144	1,163	151	144	2,603	135	2,738
受取利息及び支払利息	144	66	16	10	238	△62	176
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,135	561	302	79	2,078	769	2,848

- (注) 1 外部顧客への売上高の調整額には、請負工事に係る収益計上のうち工事進行基準に基づく売上高が含まれております。
- 2 セグメント利益の調整額には、棚卸資産に係る未実現損益及び各セグメントに配分していない一般管理費が含まれております。
- 3 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。
- 4 減価償却費の調整額には、各セグメントに配分していない資産に係る償却費が含まれております。
- 5 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額には、各セグメントに配分していない資産に係る増加額が含まれております。
- 6 セグメント資産の金額は経営資源の配分の決定や業績の評価など、定期的な検討の対象となっていないため記載しておりません。

	報告セグメント					調整額	計
	機能製品	電子・光学 製品	建材関連	エンジニア リング	計		
売上高							
外部顧客への売上高	<u>22,878</u>	12,173	10,452	<u>5,039</u>	<u>50,544</u>	<u>△361</u>	<u>50,182</u>
セグメント間の内部 売上高又は振替高	<u>502</u>	182	23	<u>1,798</u>	<u>2,506</u>	<u>△2,506</u>	—
計	23,381	12,355	10,475	<u>6,838</u>	<u>53,050</u>	<u>△2,867</u>	<u>50,182</u>
セグメント利益又は 損失（△）	<u>2,500</u>	△622	366	<u>166</u>	<u>2,410</u>	<u>△155</u>	<u>2,255</u>
その他の項目							
減価償却費	<u>995</u>	877	145	129	<u>2,148</u>	<u>311</u>	<u>2,459</u>
受取利息及び支払利息	<u>84</u>	98	13	12	<u>209</u>	△100	<u>109</u>
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	<u>549</u>	765	159	177	<u>1,653</u>	<u>1,229</u>	<u>2,882</u>

- （注） 1 外部顧客への売上高の調整額には、請負工事に係る収益計上のうち工事進行基準に基づく売上高が含まれております。
- 2 セグメント利益の調整額には、棚卸資産に係る未実現損益及び各セグメントに配分していない一般管理費が含まれております。
- 3 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。
- 4 減価償却費の調整額には、各セグメントに配分していない資産に係る償却費が含まれております。
- 5 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額には、各セグメントに配分していない資産に係る増加額が含まれております。
- 6 セグメント資産の金額は経営資源の配分の決定や業績の評価など、定期的な検討の対象となっていないため記載しておりません。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報」に記載のとおりであります。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
35,742	14,277	6,745	56,765

(注) 地域の区分は、地理的近接度によっております。

(2) 有形固定資産

日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
19,061	7,697	701	27,460

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載しておりません。

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報」に記載のとおりであります。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
30,647	13,809	5,726	50,182

(注) 地域の区分は、地理的近接度によっております。

(2) 有形固定資産

日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
19,279	6,868	852	27,000

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載しておりません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額	計
	機能製品	電子・光学 製品	建材関連	エンジニア リング	計		
減損損失	－	271	1	－	273	1,297	1,571

（注） 調整額は、主として報告セグメントに帰属しない土地に係るものであります。

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額	計
	機能製品	電子・光学 製品	建材関連	エンジニア リング	計		
減損損失	－	355	5	－	361	－	361

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

負ののれん発生益の金額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
1株当たり純資産額	<u>246円01銭</u>	1株当たり純資産額	<u>237円56銭</u>
1株当たり当期純損失(△)	<u>△22円18銭</u>	1株当たり当期純利益	<u>12円27銭</u>
<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、1株当たり当期純損失が計上されており、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p> <p>(算定上の基礎)</p>		<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p> <p>(算定上の基礎)</p>	
1 1株当たり純資産額		1 1株当たり純資産額	
連結貸借対照表の純資産の部の合計額	<u>21,150</u> 百万円	連結貸借対照表の純資産の部の合計額	<u>20,449</u> 百万円
普通株式に係る純資産額	<u>20,143</u> 百万円	普通株式に係る純資産額	<u>19,451</u> 百万円
差異の主な内訳		差異の主な内訳	
非支配株主持分	1,006百万円	非支配株主持分	998百万円
普通株式の発行済株式数	81,940,298株	普通株式の発行済株式数	81,940,298株
普通株式の自己株式数	58,930株	普通株式の自己株式数	61,130株
1株式当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	81,881,368株	1株式当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数	81,879,168株
2 1株当たり当期純損失(△)		2 1株当たり当期純利益	
連結損益計算書上の親会社株主に帰属する当期純損失(△)	<u>△1,815</u> 百万円	連結損益計算書上の親会社株主に帰属する当期純利益	<u>1,004</u> 百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失(△)	<u>△1,815</u> 百万円	普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	<u>1,004</u> 百万円
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳		普通株主に帰属しない金額の主要な内訳	
該当事項はありません。		該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	81,881,993株	普通株式の期中平均株式数	81,880,389株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	12,037	10,566	0.833	—
1年内返済予定の長期借入金	<u>4,054</u>	3,749	0.949	—
1年内返済予定のリース債務	128	142	—	—
長期借入金（1年内返済予定を除く）	<u>7,020</u>	<u>8,332</u>	0.669	平成29年3月～ 平成35年3月
リース債務（1年内返済予定を除く）	734	731	—	平成29年1月～ 平成43年6月
小計	<u>23,975</u>	<u>23,522</u>	—	—
内部取引の消去	<u>(3,079)</u>	<u>(3,159)</u>	—	—
合計	20,895	20,362	—	—

(注) 1 長期借入金（1年内返済予定を除く）及びリース債務（1年内返済予定を除く）の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	<u>2,990</u>	<u>2,553</u>	<u>1,266</u>	<u>636</u>
リース債務	86	82	74	62

2 「平均利率」については、借入金の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース債務については、主としてリース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

【資産除去債務明細表】

当期首及び当期末において、資産除去債務の金額が負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）における四半期情報等

累計期間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高（百万円）	<u>13,377</u>	<u>25,620</u>	<u>37,703</u>	<u>50,182</u>
税金等調整前四半期（当期）純利益 （百万円）	<u>854</u>	<u>849</u>	<u>1,453</u>	<u>1,847</u>
親会社株主に帰属する四半期（当期） 純利益（百万円）	<u>614</u>	<u>448</u>	<u>807</u>	<u>1,004</u>
1株当たり四半期（当期）純利益 （円）	<u>7.51</u>	<u>5.48</u>	<u>9.87</u>	<u>12.27</u>

会計期間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失（△）（円）	<u>7.51</u>	<u>△2.03</u>	<u>4.39</u>	<u>2.40</u>

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	642	933
受取手形	1,836	1,589
売掛金	7,023	6,176
商品及び製品	1,022	1,032
仕掛品	126	122
原材料及び貯蔵品	437	360
前払費用	74	65
立替金	587	306
関係会社短期貸付金	516	329
未収入金	1,340	1,026
その他	17	15
貸倒引当金	△0	△18
流動資産合計	13,626	11,939
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,912	2,314
構築物	304	263
機械及び装置	3,068	2,604
車両運搬具	14	13
工具、器具及び備品	191	213
土地	11,407	11,408
リース資産	630	605
建設仮勘定	257	760
有形固定資産合計	※1 17,788	※1 18,185
無形固定資産	71	76
投資その他の資産		
投資有価証券	1,598	1,351
関係会社株式	8,220	7,545
関係会社出資金	5,625	5,625
関係会社長期貸付金	471	1,070
前払年金費用	18	24
その他	227	293
貸倒引当金	△50	△111
投資損失引当金	△324	△100
投資その他の資産合計	15,787	15,699
固定資産合計	33,646	33,961
資産合計	47,272	45,900

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	395	260
買掛金	5,447	4,363
短期借入金	※2 7,428	※2 6,046
関係会社短期借入金	1,800	1,574
1年内返済予定の長期借入金	※1 2,908	※1 2,964
リース債務	46	46
未払金	369	653
未払費用	249	211
未払法人税等	16	31
賞与引当金	337	339
役員賞与引当金	—	30
設備関係支払手形	429	—
その他	88	161
流動負債合計	19,516	16,685
固定負債		
長期借入金	※1 5,587	※1 6,222
リース債務	634	607
退職給付引当金	1,512	1,542
繰延税金負債	103	105
再評価に係る繰延税金負債	2,979	2,831
その他	100	96
固定負債合計	10,918	11,405
負債合計	30,434	28,091
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,034	7,034
資本剰余金		
資本準備金	2,404	2,404
資本剰余金合計	2,404	2,404
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,076	2,124
利益剰余金合計	1,076	2,124
自己株式	△10	△10
株主資本合計	10,504	11,551
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	187	△40
繰延ヘッジ損益	△4	△1
土地再評価差額金	6,151	6,300
評価・換算差額等合計	6,334	6,257
純資産合計	16,838	17,809
負債純資産合計	47,272	45,900

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高	29,046	26,450
売上原価	23,746	20,595
売上総利益	5,299	5,855
販売費及び一般管理費	※1 5,774	※1 5,377
営業利益又は営業損失(△)	△474	477
営業外収益		
受取利息	26	43
受取配当金	1,446	1,193
その他	353	271
営業外収益合計	1,826	1,507
営業外費用		
支払利息	168	147
休止設備固定費	74	47
その他	102	104
営業外費用合計	344	299
経常利益	1,007	1,685
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	535	—
投資有価証券売却益	26	—
投資損失引当金戻入額	66	223
特別利益合計	629	223
特別損失		
固定資産除却損	※2 164	—
関係会社株式評価損	1,212	594
減損損失	1,297	—
特別損失合計	2,674	594
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△1,037	1,315
法人税、住民税及び事業税	96	79
法人税等調整額	777	23
法人税等合計	874	103
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,911	1,211

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	その他利益剰余金			
			特別償却準備金	繰越利益剰余金		
当期首残高	7,034	2,404	3	2,294	△10	11,727
会計方針の変更による累積的影響額				14		14
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,034	2,404	3	2,309	△10	11,741
当期変動額						
特別償却準備金の取崩			△3	3		－
剰余金の配当				△163		△163
当期純損失（△）				△1,911		△1,911
土地再評価差額金の取崩				838		838
自己株式の取得					△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						－
当期変動額合計	－	－	△3	△1,233	△0	△1,237
当期末残高	7,034	2,404	－	1,076	△10	10,504

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	
当期首残高	△52	△10	6,683	18,347
会計方針の変更による累積的影響額				14
会計方針の変更を反映した当期首残高	△52	△10	6,683	18,362
当期変動額				
特別償却準備金の取崩				－
剰余金の配当				△163
当期純損失（△）				△1,911
土地再評価差額金の取崩				838
自己株式の取得				△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	239	6	△532	△286
当期変動額合計	239	6	△532	△1,524
当期末残高	187	△4	6,151	16,838

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	その他利益剰余金			
			特別償却準備金	繰越利益剰余金		
当期首残高	7,034	2,404	—	1,076	△10	10,504
会計方針の変更による累積的影響額						—
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,034	2,404	—	1,076	△10	10,504
当期変動額						
特別償却準備金の取崩						—
剰余金の配当				△163		△163
当期純利益				1,211		1,211
土地再評価差額金の取崩						—
自己株式の取得					△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						—
当期変動額合計	—	—	—	1,048	△0	1,047
当期末残高	7,034	2,404	—	2,124	△10	11,551

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	
当期首残高	187	△4	6,151	16,838
会計方針の変更による累積的影響額				—
会計方針の変更を反映した当期首残高	187	△4	6,151	16,838
当期変動額				
特別償却準備金の取崩				—
剰余金の配当				△163
当期純利益				1,211
土地再評価差額金の取崩				—
自己株式の取得				△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△227	3	148	△76
当期変動額合計	△227	3	148	971
当期末残高	△40	△1	6,300	17,809

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社及び関連会社株式・出資金

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブ取引により生ずる債権及び債務の評価基準及び評価方法

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

月次移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

機械及び装置

定額法

その他の有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、平成10年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）については定額法

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

なお、過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により発生年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により発生年度の翌年度から費用処理しております。

(5) 投資損失引当金

関係会社への投資に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態を勘案し損失見込額を計上しております。

6 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……金利スワップ

ヘッジ対象……借入金

(3) ヘッジ方針

借入債務の金利変動リスクを回避することを目的としてヘッジを行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ取引担当部署が、半年ごとにヘッジ対象の相場変動とヘッジ手段の相場変動との比較に基づき評価を行っております。

7 その他財務諸表作成のための重要な事項

(1) 消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(2) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成25年9月13日 企業会計基準第21号）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準委員会 平成25年9月13日 企業会計基準第7号）等を当事業年度より適用しております。

「企業結合に関する会計基準」等の適用については、「企業結合に関する会計基準」第58-2項(4)及び「事業分離等に関する会計基準」第57-4項(4)に定める経過的な取り扱いに従っており、当事業年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当事業年度の損益に与える影響はありません。

(貸借対照表関係)

1 ※1 このうち、借入金の担保に供されている資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
(担保に供されている資産)		
建物	698百万円	676百万円
構築物	32 "	28 "
機械及び装置	1,137 "	1,012 "
土地	8,613 "	8,613 "
計	10,480 "	10,330 "
(担保を付している債務)		
長期借入金 (1年内返済予定を含む)	2,460百万円	2,460百万円

2 ※2 コミットメントライン契約

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
コミットメントライン契約の総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行残高	— "	— "
借入未実行残高	3,000 "	3,000 "

3 保証債務

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
関係会社の銀行借入等に対する保証	464百万円	403百万円
関係会社の契約履行に対する保証	251 "	119 "
保証債務 計	716 "	522 "
関係会社のリース債務に対する 経営指導念書差入	94百万円	139百万円

4 関係会社に対する主な資産・負債

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
短期金銭債権	3,790百万円	2,835百万円
長期金銭債権	471 "	1,070 "
短期金銭債務	4,623 "	3,681 "

(損益計算書関係)

1 ※1 販売費及び一般管理費に含まれている主要な費目及び金額並びに割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
支払運賃	572百万円	584百万円
給料手当	1,017 "	985 "
賞与引当金繰入額	129 "	127 "
役員賞与引当金繰入額	— "	30 "
退職給付費用	128 "	60 "
研究開発費	1,930 "	1,813 "
貸倒引当金繰入額	— "	79 "
割合		
販売費	35%	37%
一般管理費	65%	63%

2 固定資産除却損の主な内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
※2 固定資産除却損		
建物	61百万円	—百万円
機械及び装置	63 "	— "

3 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高	4,654百万円	4,280百万円
仕入高	12,995 "	10,348 "
営業取引以外の取引高	2,062 "	1,909 "

(有価証券関係)

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
子会社株式	8,199百万円	7,525百万円
関連会社株式	20 "	20 "

(注) 上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
(繰延税金資産)		
繰越欠損金	1,846百万円	1,717百万円
退職給付引当金	485 "	470 "
減損損失	484 "	456 "
子会社株式・出資金評価損否認額	100 "	121 "
賞与引当金	110 "	104 "
その他	356 "	293 "
繰延税金資産小計	3,385 "	3,164 "
評価性引当額	△3,385 "	△3,164 "
繰延税金資産合計	— "	— "
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	△79百万円	△57百万円
その他	△24 "	△47 "
繰延税金負債合計	△103 "	△105 "
繰延税金資産(又は負債)の純額	△103 "	△105 "

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率	—%	32.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	—%	1.1%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	—%	△26.4%
繰越欠損金の利用	—%	7.8%
住民税均等割等	—%	1.3%
評価性引当額の増減	—%	△16.8%
外国税額控除	—%	4.6%
その他	—%	3.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—%	7.8%

(注) 前事業年度は、税引前当期純損失となっておりますので、記載を省略しております。

3 法人税等の税率変更による繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度より法人税率の引下げ及び事業税率の変更が行われることになりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の32.1%から平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.7%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.5%となります。

この税率変更により、繰延税金負債は5百万円、法人税等調整額は2百万円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金は3百万円増加しております。また、再評価に係る繰延税金負債は148百万円減少し、土地再評価差額金は同額増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,912	542	0	140	2,314	3,770
	構築物	304	4	0	45	263	1,536
	機械及び装置	3,068	268	0	732	2,604	11,025
	車両運搬具	14	10	0	10	13	121
	工具、器具及び備品	191	116	0	93	213	1,633
	土地	11,407 [9,131]	0	—	—	11,408 [9,131]	—
	リース資産	630	19	—	44	605	273
	建設仮勘定	257	1,445	943	—	760	—
	計	17,788 [9,131]	2,408	944	1,067	18,185 [9,131]	18,360
	無形固定資産	71	9	0	4	76	—

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物 粉体輸送実験工場建屋他 321百万円

製缶工場建屋他 190 〃

建設仮勘定 新研究開発センター建設工事 755 〃

2 当期首残高及び当期末残高の [] 内は内書きで、「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成13年3月31日改正法律第19号）に基づく事業用土地の再評価差額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	51	79	1	129
投資損失引当金	324	—	223	100
賞与引当金	337	339	337	339
役員賞与引当金	—	30	—	30

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 — 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。なお、電子公告は、次の当社ウェブサイトに掲載します。(http://www.carbide.co.jp/)
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、当社の株主は、その有する単元未満株式について、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を行使することができません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第116期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）平成27年6月26日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

事業年度 第116期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）平成27年6月26日関東財務局長に提出。

(3) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書を平成27年7月1日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）の規定に基づく臨時報告書を平成28年3月29日関東財務局長に提出。

(4) 四半期報告書及び確認書

第117期第1四半期（自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日）平成27年8月12日関東財務局長に提出。

第117期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）平成27年11月12日関東財務局長に提出。

第117期第3四半期（自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日）平成28年2月10日関東財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成28年12月13日

日本カーバイド工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平野 洋 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 郷右近 隆也 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本カーバイド工業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の訂正後の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本カーバイド工業株式会社及び連結子会社の平成28年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の連結財務諸表に対して平成28年6月28日に監査報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

日本カーバイド工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平野 洋 (印)

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 郷右近 隆也 (印)

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本カーバイド工業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第117期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本カーバイド工業株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の5第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年12月13日
【会社名】	日本カーバイド工業株式会社
【英訳名】	NIPPON CARBIDE INDUSTRIES CO., INC.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 松尾 時雄
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	東京都港区港南二丁目16番2号
【縦覧に供する場所】	日本カーバイド工業株式会社 大阪支店 (大阪府中央区淡路町二丁目5番9号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【内部統制報告書の訂正報告書の提出理由】

平成28年6月29日に提出いたしました第117期（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）内部統制報告書の記載事項に誤りがありましたので、金融商品取引法第24条の4の5第1項に基づき内部統制報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

- 2 評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項
- 3 評価結果に関する事項

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____を付して表示しております。

2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

(訂正前)

<前略>

全社的な内部統制、決算・財務報告プロセスのうち全社的な観点で評価することが適切と考えられるもの及びIT全般統制については、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しており、その評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお、連結子会社5社及び持分法適用会社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少と判断し、評価範囲に含めておりません。

<後略>

(訂正後)

<前略>

全社的な内部統制、決算・財務報告プロセスのうち全社的な観点で評価することが適切と考えられるもの及びIT全般統制については、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しており、その評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお、連結子会社6社及び持分法適用会社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少と判断し、評価範囲に含めておりません。

<後略>

3【評価結果に関する事項】

(訂正前)

上記の評価の結果、当連結会計年度末時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

(訂正後)

下記に記載した財務報告に係る内部統制の不備は、財務報告に重要な影響を及ぼすこととなり、開示すべき重要な不備に該当すると判断いたしました。したがって、当該連結会計年度末時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効でないと判断いたしました。

記

当社は、平成28年8月22日、当社の連結子会社であるダイヤモンドエンジニアリング株式会社（以下、「ダイヤモンド社」）代表取締役社長から、同社の前代表取締役会長（元社長）より、「ダイヤモンド社において原価付替による原価繰延行為を行っていた」との告知を受けた旨、報告を受けました。当社は、直ちに事実確認調査を実施し、その結果、ダイヤモンド社において原価付替行為が行われていた事実が判明いたしました。

そこで、当社は、さらに専門的及び客観的な見地から事実関係等の調査分析を行う必要があると判断し、平成28年10月19日に開催された当社取締役会において、当社社長を委員長とし、外部の専門家を調査委員及び補助者とする特別調査委員会の設置を決議し、調査を実施いたしました。

調査の結果、ダイヤモンド社では、従前から粗利率を平準化すべく案件間の原価付替えが行われていた状況下、ある受注案件の外注先の債務不履行による想定外の原価について当該案件の赤字計上を糊塗する画策を契機に、従来ない多額の原価付替が平成25年8月頃から実行され、多額の原価が年度を超えて付替えられていたことが明らかとな

りました。また、同種事項の調査においても、研究開発費として処理されるべき費用の資産計上や在庫数量の水増しなどの不適切行為が発見されました。明らかとなったこれらの不適切行為は、いずれもダイヤモンド社の決算数値と予算との間にかい離を生じさせないことを目的としたものであり、ダイヤモンド社の前代表取締役会長の了解のもとに行われていました。

本件に対する当社の対応として、平成23年3月期以降の決算を訂正し、平成23年3月期から平成28年3月期までの有価証券報告書並びに平成24年3月期第1四半期から平成29年3月期第1四半期までの四半期報告書について訂正報告書を提出いたしました。

明らかとなったこれらの不適切行為は、ダイヤモンド社の前代表取締役会長の指揮下で行われたものと評せざるを得ないものであり、いわば前会長により財務会計処理に係る内部統制が無効化された状況にありました。さらにその背景には、ダイヤモンド社の組織、体制のあり方及び経営陣から従業員全員に至るまでのコンプライアンス意識や当社の親会社としての現状認識、管理・監督のあり方にも検討すべき問題があったと認識しております。当社は、当該内部統制の不備が、結果として財務報告に重要な影響を及ぼすこととなり、開示すべき重要な不備に該当すると判断いたしました。

なお、上記事実は当該連結会計年度末日後に発覚したため、当該内部統制の不備を当該連結会計年度末日までに是正することができませんでした。

当社は、財務報告に係る内部統制の重要性を認識しており、開示すべき重要な不備を是正するため、以下の再発防止策を講じて適正な内部統制の整備・運用を図ってまいります。

1. コンプライアンス教育の充実・強化
2. ダイヤモンド社の組織、体制の見直し
3. 当社によるダイヤモンド社に対する業務監査体制の見直し・強化
4. ダイヤモンド社の企業風土の抜本的改革

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年12月13日
【会社名】	日本カーバイド工業株式会社
【英訳名】	NIPPON CARBIDE INDUSTRIES CO., INC.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 松尾 時雄
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	東京都港区港南二丁目16番2号
【縦覧に供する場所】	日本カーバイド工業株式会社 大阪支店 (大阪市中央区淡路町二丁目5番9号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長松尾時雄は、当社の第117期（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）の有価証券報告書の訂正報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。